

授業科目(ナンバリング)	専門演習ⅡB (CF302)			担当教員	池永 正人		
展開方法	演習	単位数	1単位	開講年次・時期	3年・後期	必修・選択	必修
授業のねらい							アクティブ ラーニング の類型
<p>テーマ：観光地の地域研究</p> <p>国内観光地の地域研究である。観光地の地域的特性・問題点・観光開発のあり方を、観察・聞き取り・資料収集などの調査方法を用いて明らかにする。これによって、卒業論文の作成技法を習得する。</p>							⑥
ホスピタリティを構成する能力	学生の授業における到達目標				評価手段・方法	評価比率	
専門力	地域調査の方法やレポートの書き方およびプレゼンテーションの技法を身につけることができる。				研究発表	25%	
情報収集、分析力	観光地域の特性や問題点を見出す観察力・思考力を養うことができる。				野外巡検	30%	
コミュニケーション力	地域調査の準備や調査結果の整理において、グループで意見を述べるることができる。				事前・事後学習	20%	
協働・課題解決力	地域の自然や歴史・文化の観光活用に関心を抱き、調査・研究に取り組むことができる。				事前・事後学習	10%	
多様性理解力	観光地域の事象に関する自然科学や人文・社会科学の幅広い知識を修得できる。				研究成果レポート	15%	
出席					受験要件		
合計					100%		
評価基準及び評価手段・方法の補足説明							
<ul style="list-style-type: none"> <li>・演習は観光地域における野外調査である。</li> <li>・評価は、地域調査、研究発表、研究成果レポート、事前・事後学習を総合して行う。</li> </ul>							
授業の概要							
<p>演習の方法は、以下の手順で行う。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1.研究地域の選定（目的・意義・場所・日程・方法など）</li> <li>2.研究テーマ・内容の設定</li> <li>3.地域調査（現地の視察、聞き取り、文献・資料収集など11月に1泊2日で実施）</li> <li>4.調査結果の分析・整理</li> <li>5.研究成果レポートの作成</li> <li>6.研究発表会</li> </ol> <p>注）専門演習ⅡAと共通テーマのもとに調査・研究する。また、旅費は各自で実費を負担する。</p> <p>この授業の標準的な1コマあたりの授業外学修時間は、45分とする。</p>							
教科書・参考書							
教科書・参考書・指定図書：研究地域が決定した後、巡検地に関連する文献を提示する。							
授業外における学修及び学生に期待すること							
<p>この演習は、卒業論文を作成するために本格的な地域研究手法を習得するものであり、観光地の地域調査に関心のある学生の受講を希望する。地域研究の手法を習得するためには、文献・資料や観察・聞き取り調査で得たデータを用いて事象を分析・考察しなければならない。観光地域に関する学術書を精読することを希望する。</p> <p>※本演習を選択する学生は、次のコースを履修することが望ましい。 観光マネジメント</p>							

回	テ ー マ	授 業 の 内 容	予 習 ・ 復 習
1	演習の内容	過年度の実績と新年度の演習計画を理解する。	予習：シラバスを読む 復習：研究対象地域考案
2	後期（秋期）研究地域の選定 省察・個人目標の設定	観光調査の目的・場所・日程等について検討する。 前期の学修成果を省察し、後期の個人目標設定の面談を実施する。	予習：研究地の文献調べ 復習：文献を読む
3	地域調査の事前学習①	研究内容に関する文献・資料を輪読する。	予習：研究地の文献調べ 復習：文献を読む
4	地域調査の事前学習②	文献・資料を輪読する。	予習：文献を読む 復習：文献の要点整理
5	地域調査の事前学習③	市役所や観光協会等の観光関連機関での聞き取り内容について検討する。	予習：調査項目の考案 復習：調査票の作成
6	地域調査の事前学習④	観光施設等の観察調査および聞き取り調査の調査票を作成する。	予習：調査項目の考案 復習：調査票の作成
7	地域調査の準備	観光調査の日程・調査票・持参品等の確認をする。	予習：調査内容の確認 復習：持参品等の準備
8	観光地域調査	紅葉の美しい11月に、1泊2日の日程で調査する。	予習：調査内容の確認 復習：調査結果の整理
9	レポート作成要領	研究成果レポートの作成要領を理解する。	予習：調査結果の整理 復習：調査結果の整理
10	収集文献・資料の分析	現地で収集した文献・資料を輪読し、内容を分析する。	予習：レポート執筆 復習：レポート執筆
11	レポート提出	研究成果レポートを提出する。	予習：レポート執筆 復習：口頭発表の準備
12	研究発表	作成したレポートをもとに、ゼミ内で個別に口頭発表する。	予習：口頭発表の準備 復習：口頭発表の反省
13	レポートの添削指導	添削されたレポートについて、個別指導を受ける。	予習：レポート内容確認 復習：レポートの修正
14	レポートの修正	添削されたレポートを修正する。	予習：レポートの修正 復習：レポートの修正
15	後期（秋期）レポートの受理	修正した研究成果レポートを提出する。 1年間の学修を省察する。	予習：レポート提出準備 復習：文献・資料の整理

授業科目(ナンバリング)	専門演習ⅡB (CF302)			担当教員	井上 英也(実務家教員)		
展開方法	演習	単位数	1単位	開講年次・時期	3年・後期	必修・選択	必修
授業のねらい							アクティブ ラーニング の類型
<p>本学の建学の理念にあるホスピタリティは、国際化、多様化、情報化が進む企業活動においても、人と人を結びつける重要な精神として広く取り入れられている。本演習は、ホスピタリティ産業の事例研究を通じて、“感じる力”“考える力”“表現・行動する力”を養い、将来の観光産業のリーダーに必要な素養を修得することをねらいとします。授業は、個人・グループによる研究、討議、発表により学びを深めます。</p>							②④ ⑥⑦
ホスピタリティを構成する能力	学生の授業における到達目標				評価手段・方法	評価比率	
専門力	ホスピタリティ・マネジメントについて、企業の事例から具体的に説明することができる。				課題レポート	30%	
情報収集、分析力	新聞や雑誌あるいはウェブサイトに掲載されるホスピタリティ産業に関する最新の関連記事や情報を収集し、変化の兆候を探り、将来への考察をすることができる。				授業への積極姿勢	40%	
コミュニケーション力	課題に積極的に取り組み、自分の考えを説明することができる。また、パワーポイントを使って説得力のあるプレゼンテーションをすることができる。				授業への積極姿勢 プレゼンテーション	20%	
協働・課題解決力	ホテルなどホスピタリティ産業の視察、研究において、自分の役割を設定し、グループに貢献することができる。また、新たなチャレンジに果敢に挑戦することができる。				授業への積極姿勢 現場視察への積極姿勢	5%	
多様性理解力	外国人旅行客が地域観光に求めることを理解し、改善策を提言することができる。				プレゼンテーション	5%	
出席					受験要件		
合計					100%		
評価基準及び評価手段・方法の補足説明							
<p>① 「授業への積極姿勢」は、授業中の態度、発言・質問の頻度とレベルをもとに評価する。          ② 「課題レポート」は提出時期(30%)内容の論理性・独自性(50%)文章構成力・形式要件(20%)で評価する。          ③ 「プレゼンテーション」は、内容とともに、情報ツールの活用能力、発表態度などをもとに評価する。          ④ 「現場視察への積極姿勢」は、事前準備、視察中の態度、事後のとりまとめなどをもとに評価する</p>							
授業の概要							
<p>ホスピタリティ・マネジメントを実践する企業について、人と人、人とモノ、人と社会、人と自然、それぞれのつながりの観点から事例研究を行う。企業研究の成果については、プレゼンテーションを通じて共有し、グループ討議において考察を深める。また、授業の理解度をポートフォリオのレスポンスやイマキクを利用して確認するこの授業の標準的な授業外学修時間は、1コマ45分とする。</p>							
教科書・参考書							
<p>教科書：特になし / 参考書：授業時に、指定する。 指定図書：「ワーク・シフト」リンダ・グラットン</p>							
授業外における学修及び学生に期待すること							
<p>①ホテル・旅館など宿泊産業の情報に興味を持ち、書籍及び新聞、テレビ、雑誌などメディアから積極的に入手する。          ②ゼミのチームメンバーとは、協力して授業外の研究活動を行う。          ③「ホテル管理論」・「ホテルビジネス英語」・「Hotel Management」など関連の科目を履修し、理解を深める。          ④近隣地域の観光イベントに興味を持ち、積極的に参加する。          ⑤国際的な情勢に関心を持ち、学内・学外を問わず、積極的に異文化交流を行う。</p>							

回	テーマ	授業の内容	予習・復習
1	オリエンテーション	専門演習ⅡAを総括し、今後の演習の進め方をシラバスに基づいて詳しく説明する。	(予習) シラバスを読んでおく
2	省察、個人目標の設定	前期を省察し、後期の個人目標設定のための面談を実施する。	(予習) 後期の個人目標を考えておく
3	企業研究1	企業情報の収集方法を修得し、会社情報、IR情報などから企業分析の基礎を学ぶ。	(予習) 会社情報の収集をする
4	企業研究2	個人あるいはグループで1社を選択し、企業分析を行う。	(復習) 企業分析を完了する
5	企業研究3	各自あるいはグループの企業研究発表を行い、グループ討議により研究成果を共有する。	(予習) プレゼンテーションを作成する
6	事例研究Ⅰ①	社員の意識調査において、満足度(エンゲージメント)指数が高い会社の事例研究を行い、“働きがい”について考察する。	(予習) 社員のエンゲージメントを調べる
7	事例研究Ⅰ②	①についての研究発表を行い、グループ討議により働きがいのある会社の条件を考察する。	(予習) プレゼンテーションを作成する
8	事例研究Ⅱ①	顧客満足あるいは環境への意識が高い会社の事例研究を行い、社会で認められる会社の特徴を考える。	(予習) 顧客満足の高い会社を1社選択して調べる
9	事例研究Ⅱ②	①についての研究発表を行い、グループ討議により社会で認められる会社の条件を考察する。	(予習) プレゼンテーションを作成する
10	事例研究Ⅲ①	長崎県内企業を訪問し、課題を引き出す。	(復習) ヒアリングの結果をまとめる
11	事例研究Ⅲ②	①に対する分析を行い、改善案をまとめて発表する。グループ討議を行い、改善案の検証をする。	(予習) プレゼンテーションを作成する
12	訪問企業の研究①	現職の人事部長をゲストスピーカー(実務家)として招き、会社が求める人物像を明らかにする。	(復習) 会社が求める人物像をまとめる
13	訪問企業の研究②	就職活動で訪問を予定する複数の会社をリストアップし、企業研究を行う。また、自身のキャリアプランと企業の採用方針を確認した上で、志望動機をまとめる。	(復習) 志望動機をまとめる
14	訪問企業の研究③	①②で研究した企業に応じた模擬面接を実施する。	(予習) 面接の準備をおこなう
15	専門演習ⅠAのまとめ	学んだことをグループ毎にとりまとめ、発表する。	(予習) グループ発表の準備をする

授業科目(ナンバリング)	専門演習ⅡB (CF302)			担当教員	落合 知子		
展開方法	演習	単位数	1 単位	開講年次・時期	3 年・後期	必修・選択	必修
授業のねらい							アクティブラーニングの類型
<b>テーマ：博物館・地域文化資源の博物館学的研究</b> 博物館学的概念に立脚した博物館と地域文化資源について学ぶ。博物館学は幅広い分野の学問領域であり、調査や本演習を通じて卒業論文のテーマを決定し、論文作成の技法を習得し、プレゼンテーションを通して研究発表ができる技量を養う。							①⑥⑫
ホスピタリティを構成する能力	学生の授業における到達目標				評価手段・方法	評価比率	
専門力	博物館学に関心を持つことができ、調査・研究の取り組み方法を身に付けることができる。				授業・調査への参加度	30%	
情報収集、分析力	博物館学の特性や問題点を見出す力や思考力を養うことができる。				事前・事後学習	40%	
コミュニケーション力	ゼミ形態の授業を基本とし、学外のフィールドワークで協調性を養うことができる。				調査における態度	20%	
協働・課題解決力	フィールドワークの調査方法を身に付け、PPTを使用したプレゼンテーションができる。勉強会で積極的に発表ができる。				プレゼンテーション 勉強会での発表	10%	
多様性理解力						%	
出席					受験要件		
合計					100%		
評価基準及び評価手段・方法の補足説明							
情報収集・分析力が 40%、卒業研究に対する専門力が 30%、フィールドワークでのコミュニケーション力が 20%、プレゼンテーション、その他 10% で評価する。 課題・レポートに対してのフィードバックはポートフォリオで行う。							
授業の概要							
この授業の標準的な1コマあたりの授業外学修時間は45分とする。 ・博物館の日程・調査方法などを検討する。 ・現地調査を1 日以上実施する。 ・研究発表会を行う。 ・研究成果レポートの作成と提出。							
教科書・参考書							
教科書：特に指定しない。授業時の配布資料。 参考書：『博物館と観光』（落合知子編・雄山閣） 指定図書：『野外博物館の研究』（落合知子著・雄山閣）							
授業外における学修及び学生に期待すること							
本演習は、博物館や地域文化資源に興味を持ち、博物館専門職員である学芸員の資格取得を目指す学生の受講を希望する。教育者でもあり、研究者でもある学芸員は専門分野の知識は勿論のこと、コミュニケーション能力と礼節が求められるため、社会人としての基礎的能力を身に付けることを期待する。							

また、日頃から博物館施設に訪れ、展示を見学するだけでなく、博物館で開催されるワークショップや公開講座にも積極的に参加し、博物館の教育活動の在り方を学ぶことが望ましい。

※本演習を選択する学生は「学芸員資格課程」を履修することが望ましい。

※現地調査の旅費は実費とする。

回	テーマ	授業の内容	予習・復習
1	オリエンテーション	専門演習の進め方・目標について理解する。	予習：シラバスを読む 復習：野外調査地の考案
2	前学期の省察と本学期的目標設定	ゼミ担当教員と相談しながら、前学期の省察を行い、それを基に本学期的目標設定について確定する。	予習：前学期の省察と本学期的目標設定の下書き 復習：本学期的目標設定の清書
3	野外調査の事前学習①	野外調査地の場所・日程等について検討する。 野外調査の具体的内容と割振りをする。	予習：野外調査地予備調査 復習：今回の復習
4	野外調査の事前学習②	各担当者の事前学習の発表。卒論テーマの決定。	予習：発表の準備 復習：発表の反省
5	野外調査の事前学習③	各担当者の事前学習の発表。卒論テーマの決定。	予習：発表の準備 復習：発表の反省
6	野外地域文化資源調査	野外地域文化資源の調査をする。	予習：調査内容の確認 復習：調査結果の整理
7	レポート作成	調査をもとにレポートを作成する。	予習：レポート内容確認 復習：レポート執筆
8	文献資料の収集と分析	調査で収集した文献・資料を理解する。	予習：調査収集資料の確認 復習：調査結果の整理
9	レポート作成	レポートを作成する。	予習：レポート執筆 復習：レポート執筆
10	レポート作成	レポートを作成する。	予習：レポート執筆 復習：レポート執筆
11	研究発表	作成したレポートをもとに、プレゼンテーションを行う。	予習：レポート執筆 復習：口頭発表の準備
12	研究発表	作成したレポートをもとに、プレゼンテーションを行う。	予習：口頭発表の準備 復習：口頭発表の反省
13	研究発表	作成したレポートをもとに、プレゼンテーションを行う。	予習：口頭発表の準備 復習：口頭発表の反省

14	レポートの添削指導	添削されたレポートを修正する。	予習：レポートの修正 復習：レポートの修正
15	前期レポートの受理	後期のまとめとして、修正した研究成果レポートを提出する。	予習：レポート提出準備 復習：文献・資料の整理

授業科目(ナンバリング)	専門演習ⅡB(CF302)			担当教員	熊谷 賢哉		
展開方法	演習	単位数	1単位	開講年次・時期	3年・後期	必修・選択	必修
授業のねらい							アクティブラーニングの類型
前半では、高齢者の健康づくりに関するテキストの輪読を通して、高齢者の健康づくりを科学的な視点からサポートする方法について理解することを目的とする。後半では、前半にテキストを通して学んだ知識や、その他の授業等で学んできた知識と、これまでの経験を通して得た知識や抱いていた疑問等を関連づけて考えることで、卒業論文のテーマを決定していく。							①⑤⑥
ホスピタリティを構成する能力	学生の授業における到達目標			評価手段・方法		評価比率	
専門力	<ul style="list-style-type: none"> <li>平均値の差の検定や直線回帰分析といった簡単な統計手法について理解することができる。</li> </ul>			<ul style="list-style-type: none"> <li>課題レポート</li> </ul>		30%	
情報収集、分析力	<ul style="list-style-type: none"> <li>高齢者の生活機能を増進する運動プログラムについて理解することができる。</li> <li>演習で学んできた知識を活かし、卒業研究のテーマを明確化することができる。</li> </ul>			<ul style="list-style-type: none"> <li>プレゼン用レジュメ</li> <li>プレゼン後のディスカッション</li> </ul>		20% 30%	
コミュニケーション力	<ul style="list-style-type: none"> <li>ディスカッションにおいて自分の意見を述べるができる。</li> </ul>			<ul style="list-style-type: none"> <li>プレゼンテーション</li> <li>プレゼン後のディスカッション</li> </ul>		20%	
協働・課題解決力						%	
多様性理解力						%	
出席				受験要件			
合計				100%			
評価基準及び評価手段・方法の補足説明							
<p>プレゼンテーションおよびプレゼン後のディスカッション(50%)については、前半のテキスト輪読では、テキストの担当箇所に記載されている知識の把握のみならず、その周辺領域に関する知識も把握した上でのプレゼンテーションを行っているかを評価基準とする。また、後半の参考文献の紹介では、紹介する論文に記載されている内容を理解した上で、その内容を他のゼミ生に伝えられているかを評価基準とする。プレゼン用レジュメ(20%)については、プレゼンテーションを行うにあたり、その内容がしっかりと要約できているかを評価基準とする(授業内でフィードバック)。課題レポート(30%)については、データの解析方法を理解した上で解析ができているかを評価基準とする。</p>							
授業の概要							
<p>ゼミ前半は、高齢者の健康づくりに関するテキストを輪読していく(①担当箇所(担当者)の決定、②担当箇所を精読、③要約、④レジュメ作成、⑤報告、⑥ディスカッション)。なお、②～④の行程については、担当者が事前(ゼミ時間外)に準備するものとする。ゼミ後半は、各自が興味を持った分野の文献を順番でゼミの中で紹介していく(①文献検索、②紹介文献決定、③精読、④要約、⑤レジュメ作成、⑥報告、⑦ディスカッション)。なお、②～⑤の行程については、担当者が事前に準備するものとする。この授業の標準的な1コマあたりの授業外学修時間は、45分です。</p>							
教科書・参考書							
<p>教科書：特に指定しない</p> <p>参考書：松田光生他 編『地域における高齢者の健康づくりハンドブック』NAP社</p> <p>指定図書：松田光生他 編『地域における高齢者の健康づくりハンドブック』NAP社</p>							
授業外における学修及び学生に期待すること							



本ゼミで行う内容に興味を持ち積極的に参加してほしい。そのためには、ゼミ時間外に、ゼミで行った内容について復習を通して理解すると共に、ゼミで行った内容の周辺領域の知識について予習する等の取り組みを行ってほしい。また、知識の修得や理解の以前に、“ヒト”としてではなく“人”として、そして大学生としての最低限のマナーをもって教員やゼミ生と接してほしい。メリハリ（学ぶときは学び、遊ぶときは遊ぶ）を大切に！

回	テーマ	授業の内容	予習・復習
1	オリエンテーション (1)	自己紹介、ゼミの進め方について、輪読担当箇所の決定	担当者：担当箇所（生活機能を規定する要因(1)の精読・要約・レジュメ作成） 担当者以外：生活機能を規定する要因(1)の精読
2	前学期の省察と本学期の目標設定	ゼミ担当教員と相談しながら、前学期の省察を行い、それを基に本学期の目標設定について確定する	予習：前学期の省察と本学期の目標設定の下書き 復習：本学期の目標設定の清書
3	輪読 (1)	生活機能を増進する運動プログラム(1)「健康教室開催のための知識と準備」	担当者：担当箇所（生活機能を規定する要因(2)の精読・要約・レジュメ作成） 担当者以外：生活機能を規定する要因(2)の精読
4	輪読 (2)	生活機能を増進する運動プログラム(2)「運動開始のためのメディカルチェック」	担当者：担当箇所（生活機能を規定する要因(3)の精読・要約・レジュメ作成） 担当者以外：生活機能を規定する要因(3)の精読
5	輪読 (3)	生活機能を増進する運動プログラム(3)「運動の安全基準」	担当者：担当箇所（生活機能を規定する要因(4)の精読・要約・レジュメ作成） 担当者以外：生活機能を規定する要因(4)の精読
6	輪読 (4)	生活機能を増進する運動プログラム(4)「栄養と水分摂取」	担当者：担当箇所（生活機能を規定する要因(5)の精読・要約・レジュメ作成） 担当者以外：生活機能を規定する要因(5)の精読
7	輪読 (5)	生活機能を増進する運動プログラム(5)「筋力増大のための運動プログラム」	担当者：担当箇所（生活機能を規定する要因(6)の精読・要約・レジュメ作成） 担当者以外：生活機能を規定する要因(6)の精読
8	輪読 (6)	生活機能を増進する運動プログラム(6)「筋持久力増大のための運動プログラム」	担当者：担当箇所（生活機能を規定する要因(7)の精読・要約・レジュメ作成） 担当者以外：生活機能を規定する要因(7)の精読
9	輪読 (7)	生活機能を増進する運動プログラム(7)「減量プログラム」	担当者：担当箇所（生活機能を規定する要因(8)の精読・要約・レジュメ作成） 担当者以外：生活機能を規定する要因(8)の精読
10	輪読 (8)	生活機能を増進する運動プログラム(8)「施設での運動プログラム」	担当者：担当箇所（生活機能を規定する要因(9)の精読・要約・レジュメ作成） 担当者以外：生活機能を規定する要因(9)の精読
11	輪読 (9)	生活機能を増進する運動プログラム(9)「家庭での筋量・筋力増強プログラム」	生活機能を規定する要因(1)～(9)の復習
12	オリエンテーション (2)	卒業論文のテーマについて、担当順の決定	担当者：参考文献の検索・精読・要約・レジュメ作成 担当者以外：参考文献の検索
13	プレゼンテーション (1)	担当者による参考文献の紹介およびディスカッション (1)	担当者：参考文献の検索・精読・要約・レジュメ作成 担当者以外：参考文献の検索
14	プレゼンテーション (2)	担当者による参考文献の紹介およびディスカッション (2)	担当者：参考文献の検索・精読・要約・レジュメ作成 担当者以外：参考文献の検索
15	まとめ	卒業論文のテーマの報告およびディスカッション	卒業論文の題目作成

授業科目(ナンバリング)	専門演習ⅡB (CA111)			担当教員	滝 知則		
展開方法	演習	単位数	1 単位	開講年次・時期	3 年・後期	必修・選択	必修
授業のねらい							アクティブラーニングの類型
<b>三川内焼の特徴と魅力を、2つの言葉でガイドする</b> 後期においては、三川内焼と波佐見焼の比較を行う。この比較を通じ、三川内焼の特徴の説明を、前期よりも幅広くまた深くできるようにする。説明は、2つの言語で行うことをめざす。これらを通じ、佐世保の観光対象としての三川内焼の魅力を理解するとともに、コミュニケーション能力を伸ばす。							④ ⑥
ホスピタリティを構成する能力	学生の授業における到達目標				評価手段・方法	評価比率	
専門力	研究対象とする陶磁器の歴史と制作過程を理解し、説明できる。				期末レポート	10%	
情報収集、分析力	資料調査、観察またはインタビューを行うことにより、対象とする陶磁器の情報を収集する。				期末レポート	○25%	
コミュニケーション力	調査結果を聞き手に分かりやすく並べ替え、説明できる。ゼミのメンバーならびに担当教員の発言を傾聴できる。				ゼミ内発表会 演習参加状況	◎35% 10%	
協働・課題解決力	①フィールドワークの際、2年生と一緒に調査を行うことができる。②学術発表の際、2年生を支援できる。				フィールドワーク・学術発表参加	△10%	
多様性理解力	ゼミのメンバーと自分の文化的背景の違いを認識したうえで、お互いを尊重して行動できる。				演習への参加状況	10%	
出 席					受験要件		
合 計					100%		
評価基準及び評価手段・方法の補足説明							
1. 評価基準を授業の時系列順に示すと、授業中の傾聴（毎回）、自他の文化の尊重（毎回）、フィールドワーク参加状況（実施時）、ゼミ内発表会、期末レポート（40%）である。 2. フィードバックは次の時点で行う。予習課題・復習課題：授業中、プレゼンテーション：当該授業時、期末レポート：提出締切後（個別に）							
授業の概要							
この授業の標準的な1コマあたりの授業外学修時間は、45分です。							
教科書・参考書							
教科書：指定しない。 参考書：『平戸の文化と自然』、『皿山なぜなぜ』、『長崎学への道案内』、『日本やきもの史』等。 指定図書：大橋康二（2004）海を渡った陶磁器。吉川弘文館。							
授業外における学修及び学生に期待すること							
（1）開国祭での学術発表への参加を、必須とする。（2）ようこそ JAPAN 外国語コンテストへの出場または運営の支援が望ましい（必須ではない）。（3）観光マネジメントコース、スポーツツーリズムコース、またはグローバルツーリズムコース履修生の受講を勧める。							

回	テーマ	授業の内容	予習・復習
1	イントロダクション	この科目の目的と目標、ならびに学習スケジュールを確認する。	(予習) シラバスを読んてくる。 (復習) 後期のスケジュールを手帳等に記入する。
2	省察	3年前期の学修成果を省察し、後期の個人目標設定のための面談を実施する。	(予習) 面談の準備。 (復習) 面談結果を記録しておく。
3	学術発表準備 1	前期のレポートを基にした学術発表の準備。①グループ編成、②スライド制作の方針と作業分担。	(予習) 前期のレポート(紙媒体とデータ)を持参する。 (復習) 制作したスライドのページをマナバにアップする。
4	学術発表準備 2	学術発表用スライドの編集作業。	(予習) グループのメンバーのスライドを読んでおく。(復習) 自分のスライドの修正、編集
5	学術発表準備 3	学術発表のリハーサル。	(予習) 発表の練習をしてくる。 (復習) リハーサルで見つかった課題の改善
6	学術発表	大学祭期間中に学術発表を行う。	(予習) 発表の練習をしてくる。 (復習) 発表後の感想を、マナバに記入する。
7	波佐見焼の調査 1	①学術発表のふりかえり。 ②波佐見焼の概要、③波佐見町へのアクセス、④卒論テーマの準備の指示、⑤就活準備(別途指示)	(予習) 配布された資料を読んてくる。(復習) 調査結果を記録する。
8	波佐見焼の調査 2	①フィールドワーク時調査対象(窯元、観光施設)の検討、②卒論テーマの準備、③就活準備(別途指示)	(予習) 調査対象の候補を選んておく。(復習) 調査結果を記録する。
9	波佐見焼の調査 3	①フィールドワーク時調査対象(窯元、観光施設)の選定、②行程の決定、③卒論テーマの準備、④就活準備(別途指示)	(予習) 自分が希望する調査対象を選んておく。(復習) フィールドワークの準備
10	波佐見町フィールドワーク	フィールドワークの実施	(復習) フィールドワークの調査結果をマナバに記入する。
11	フィールドワークのふりかえり 1	①フィールドワーク調査結果の共有、②卒論テーマの準備、③就活準備(別途指示)	(予習) マナバに記入された調査結果を読んてくる。(復習) 他メンバーの調査結果への感想を記入
12	フィールドワークふりかえり 2	①波佐見焼との比較を踏まえ、三川内焼の特徴と魅力を聴き手に伝えるプレゼン用のスライドを作成する。	(予習) プレゼンの作成 (復習) 見つかった改善点を考慮してプレゼン資料を修正し、次回で提示する。
13	フィールドワークふりかえり 3	②プレゼンテーションの内容を、リーフレット(A4版1ページ)にまとめる。 ③卒論テーマの準備、④就活準備(別途指示)	
14	ゼミ内発表会	①各ゼミ生によるプレゼンテーション(3分間) ②リーフレット ①・②とも「分かりやすさ」に留意し、相互に評価する。	(予習) プレゼンの練習 (復習) プレゼンの評価
15	全体のまとめ	①この科目で学習した内容のふりかえり、②所期の目標に到達したか、③期末レポートの指示	(予習) 目標の到達度を発表できるよう、準備する。

授業科目(ナンバリング)	専門演習ⅡB (CF302)			担当教員	田中 誠		
展開方法	演習	単位数	1 単位	開講年次・時期	3 年・後期	必修・選択	必修
授業のねらい							アクティブ ラーニング の類型
<ul style="list-style-type: none"> <li>・社会生活に必要な内容に関して、英語で表現することができるようになり、多文化共生社会において交流することができる。</li> <li>・特定のテーマに関して、自ら事前に調べ発表することで学びや知識を深め、様々な問題解決に役立つ思考や判断をすることができる。</li> <li>・TOEIC の問題を辞書を使用すれば、概ね理解することができ、それを実際のコミュニケーションに活かすことができる。</li> </ul>							① ⑥
ホスピタリティを構成する能力	学生の授業における到達目標				評価手段・方法	評価比率	
専門力	TOEIC 470 点レベルの語法問題を概ね解くことができる。				・テスト	35%	
情報収集、分析力	社会性のある問題の情報収集、及び解決のための思考・判断能力を身につけ、その内容を発表することができる。				・受講者の発表	40%	
コミュニケーション力	(1)社会生活に必要なコミュニケーションのための知識を理解し、コミュニケーションがうまくいかない場合は、なぜうまくいかないのかを説明することができる。				(1) 受講者の発表	10%	
	(2)コミュニケーション力をつけるための課題英文を適切に書くことができる。				(2) 課題	15%	
協働・課題解決力							
多様性理解力							
出席					受験要件		
合計					100%		
評価基準及び評価手段・方法の補足説明							
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 毎回、英文の音読筆写の課題を提出する。また、そのフィードバックは課題提出時にその都度行う。</li> <li>2. 14 回目に 30 分のテストを実施。テスト内容は TOEIC の形式とする。テスト後はポートフォリオでフィードバックを行う。</li> <li>3. 担当箇所の発表内容を評価の対象とする。準備不足の学生は減点となる。</li> </ol>							
授業の概要							
<p>英語と日本語の実際の場面で使用される様々な表現を学ぶとともに、与えられたテーマに関して議論し、理解を深める。また、TOEIC に関して深く学ぶ。(コースの指定は特にしない。)</p> <p>この授業の標準的な 1 コマあたりの授業外学修時間は、45 分とする。</p>							
教科書・参考書							
<p>教科書：『脱文法 100 トピック実践英語トレーニング』中山誠一(他)、ひつじ書房。及び、プリント配布。</p> <p>参考書：『新 TOEIC TEST 出る単特急 金のフレーズ』TEX 加藤(著)、朝日新聞出版。</p> <p>『新 TOEIC TEST 入門特急 とれる 600 点』TEX 加藤(著)、朝日新聞出版。</p> <p>指定図書：『続 日本人の英語』マーク・ピーターセン(著)、岩波新書。</p>							
授業外における学修及び学生に期待すること							
<p>コミュニケーション能力向上のために自ら学ぶという努力をしてもらいたい。この演習は、自ら学ぼうとする学生向けの内容となっている。英語と日本語双方の言語に関して、コミュニケーション能力の向上を目指し、ハイレベルな内容を取り扱うので、英語力と日本語力の両方がないと授業についていくのは難しい。特に、留学生は日本語能力が N1 レベルないと授業内容を理解するのは難しいであろう。毎回、課題も出すので、一生懸命に自ら学ぶ必要があることを理解して履修すること。また、長期インターンシップに参加する学生を歓迎する。</p>							

回	テーマ	授業の内容	予習・復習
1	オリエンテーション	休暇中の取り組みについて英語で発表。また、ゼミがスムーズに運営できるように、オリエンテーションを行う	予習：TOEIC の最新情報について調べる 復習：音読筆写
2	前学期の省察と本学期的目標設定	前学期の省察を行い、それを基に本学期的目標を設定する	予習：前学期の省察と本学期的目標設定の下書き 復習：本学期的目標設定の清書
3	古民家	古民家に関する表現、TOEIC 問題、翻訳研究、ディスカッション	予習：TOEIC 1-10 について調べる 復習：英文 1-10 音読筆写
4	いろり	いろりに関する表現、翻訳研究、TOEIC 問題、ディスカッション	予習：TOEIC 11-20 について調べる 復習：英文 11-20 音読筆写
5	民芸品 1	民芸品に関する表現 1、TOEIC 問題、翻訳研究、ディスカッション	予習：TOEIC 21-30 について調べる 復習：英文 21-30 音読筆写
6	論文の書き方①	論文のテーマを探す、資料の収集法、図書館活用法、カードの活用、PCの活用など（レベル 2）、TOEIC 問題、翻訳研究、ディスカッション	予習：TOEIC 31-40 について調べる 復習：英文 31-40 音読筆写
7	民芸品 2	民芸品に関する表現 2、TOEIC 問題、翻訳研究、ディスカッション	予習：TOEIC 41-50 について調べる 復習：英文 41-50 音読筆写
8	お城	お城に関する表現、TOEIC 問題、翻訳研究、ディスカッション	予習：TOEIC 51-60 について調べる 復習：英文 51-60 音読筆写
9	武具	武具に関する表現、TOEIC 問題、翻訳研究、ディスカッション	予習 TOEIC 61-70 について調べる 復習：英文 61-70 音読筆写
10	観光地	観光地に関する表現、TOEIC 問題、翻訳研究、ディスカッション	予習：TOEIC 71-80 について調べる 復習：英文 71-80 音読筆写
11	道祖神	道祖神に関する表現、TOEIC 問題、翻訳研究、ディスカッション	予習：TOEIC 81-90 について調べる 復習：英文 81-90 音読筆写
12	論文の書き方②	インターネット活用、切り口を考える、何をすべきかなど（レベル 2）、TOEIC 問題、翻訳研究、ディスカッション	予習：TOEIC 91-100 について調べる 復習：英文 91-100 音読筆写
13	稲作 1	稲作に関する表現 1、TOEIC 問題、翻訳研究、ディスカッション	予習：TOEIC 101-110 について調べる 復習：英文 101-110 音読筆写
14	稲作 2	稲作に関する表現 2、TOEIC 問題テスト実施、翻訳研究、ディスカッション	予習：試験の準備学習、 復習：音読筆写
15	まとめ	休暇中の学びについて、ディスカッション、TOEIC 問題、翻訳研究	予習：TOEIC 111-120 について調べる 復習：英文 111-120 音読筆写、振り返り

授業科目(ナンバリング)	専門演習ⅡB ( )			担当教員	大井田 かおり		
展開方法	演習	単位数	1 単位	開講年次・時期	3 年・後期	必修・選択	必修
授業のねらい							アクティブ・ラーニングの類型
本演習では、卒論で取り上げる大きな課題を決めたうえで、その課題に関連する内容の観光映像を作成する。映像はパワーポイントを紙芝居形式で動画にしたものや、携帯電話で撮影した動画でかまわない。出来上がった動画は学内公開する。動画は自撮り中心でも知り合いに出演してもらってもかまわないが、作成した本人が必ず動画のどこかに出演すること。							①③⑤⑥
ホスピタリティを構成する能力	学生の授業における到達目標				評価手段・方法	評価比率	
専門力	・各自が掲げた課題に対し、幅広く関連書籍を読み、現状に即して考察でき、それを他人に対して表現できる。				・プレゼンテーション ・映像	10% 20%	
情報収集、分析力	・各自が掲げた課題に対し、幅広く情報を収集提示できる。 ・自分自身の見せ方を客観的に分析できる。				・プレゼンテーション ・映像	20% 30%	
コミュニケーション力	・みんなが興味を持つようなプレゼンテーションや映像作成を行うことができる。				・プレゼンテーション ・映像	5% 15%	
協働・課題解決力							
多様性理解力							
出席					受験要件		
合計					100%		
評価基準及び評価手段・方法の補足説明							
プレゼンテーション (35%) と作成した映像 (65%) を総合的に評価する。							
授業の概要							
本演習では、卒論の大きな課題への知識と関心深めると共に、課題から題材を取った観光映像の作成を行う。ただし映像は外国人が見ても分かるように、英語でセリフを言う、英語字幕をつける等の工夫をすること。この授業の標準的な1コマあたりの授業外学修時間は、45分とする。							
教科書・参考書							
教科書：特になし 参考書：家子史穂、千葉達也『仕事に使える動画術 成功例に学ぶ YouTube 活用とオリジナル動画作成法』翔泳社 指定図書：特になし							
授業外における学修及び学生に期待すること							
現在個人の意見を発表する際は、プレゼンテーションという形にすることが一般的である。ところが、YouTube が注目される現在、動画という形で個人の意見を訴えることができるという技術が必要になってくるはずである。また、観光業や観光関係の仕事を展開するに当たり、観光映像を作成する必要に迫られることが今後は増えてくるであろう。よって、時間がある時は、YouTube などの観光映像を目にするようにして欲しい。授業には充電済みのパソコンを持って来ること。それぞれの作業は前倒しで進行してもかまわないので、その場合は相談に来ること。							

回	テ ー マ	授 業 の 内 容	予 習 ・ 復 習
1	ガイダンス	今後の授業の進め方について説明する。各自の大きな課題が何かを決める。	卒業論文の大きな課題を決めておく。
2	観光映像について	日本における観光映像の現状について考察する。各自が気に入った観光映像（原則5分以内）を紹介分析するプレゼンを行う。	YouTubeで気に入った観光映像を取りあげ、内容分析したプレゼンを準備する。
3	動画作成について1	パワーポイントを使用した動画作成について学ぶ。動画は提出する。	パワーポイントの動画作成機能についての資料を見ておく。
4	動画作成について2	一般の動画作成について学ぶ。動画は提出する。	動画作成資料に目を通しておくこと。
5	研究背景について	各自の研究課題と先行研究についてプレゼンテーションを行う。	各自の課題に関する主な先行研究のレビューを準備しておく。
6	動画内容について	それぞれの動画内容に関する研究についてプレゼンテーションを行う。	動画内容に関する研究のプレゼンを準備しておく。
7	映像の台本発表1	それぞれの映像の台本を発表する。それについて、討論する。	映像の台本を作成しておく。
8	映像の台本発表2	前回の討論のふまえて修正した台本を発表する。	修正した台本を発表する。
9	映像の撮影と編集1	映像の撮影と編集を行う。	すみやかに撮影できるように準備しておく。
10	映像の撮影と編集2	映像の撮影と編集を行う。	編集にすぐ取り掛かれる環境を用意しておく。
11	映像の進捗報告	映像の撮影状況について、プレゼンテーションを行う。	映像の撮影状況についてのプレゼンを準備する。
12	専門研究を深める1	映像撮影を通じて持った個人的問題意識についての発表を行い、討論する。	問題意識についてのプレゼンを準備する。
13	専門研究を深める2	映像撮影を通じて持った問題意識の中で、みんなと共有したい内容についての発表を行い、討論する。	問題意識についてのプレゼンを準備する。
14	映像発表会	各自が作成した動画を発表し、内容について討論する。	動画を作成しておく。
15	振り返り	映像作成を通じて得られたものや感じたことについて発表し、討論する。	各自の反省意見をまとめておく。

授業科目(ナンバリング)	専門演習ⅡB(CF302)			担当教員	乙須 翼		
展開方法	演習	単位数	1単位	開講年次・時期	3年・後期	必修・選択	必修
授業のねらい							アクティブ ラーニング の類型
本演習では、受講者が各自設定したテーマに関連するデータや新聞記事、報告書、資料を自ら収集し、分析していくことで、受講者の情報を収集する力、情報を批判的に分析する力、自分の考えを的確に説明する力、論理的な文書を書く力、これら卒業研究の作成に向けた力の養成を図りたい。最終的には、受講者が自ら考察の視点を持ち、4年次の卒業研究に取組めるよう導きたい。							⑥⑩⑫
ホスピタリティを構成する能力	学生の授業における到達目標				評価手段・方法	評価比率	
専門力	テーマに関する基本的な事項を理解し、説明することができる。				発表と議論 レポート	10 % 20 %	
情報収集、 分析力	テーマに関する資料や情報を自ら収集し、指定された形式でレポートを作成することができる。 テーマに関するデータや論文などを的確に読み取ることができる。				発表と議論 レポート	20 % 40 %	
コミュニケーション力	根拠となる資料を提示しながら自分の見解を述べ、他の受講者と議論することができる。				発表と議論	10 %	
協働・課題解決力						%	
多様性理解力						%	
出 席					受験要件		
合 計					100%		
評価基準及び評価手段・方法の補足説明							
評価については、レポートを60%、発表と議論を40%の比率で評価する。レポートはレポート・ループリック等を用いて様式や文献引用ルールの順守等、基本的なアカデミック・スキルと、論理的な文章による考察や独自性などの観点から評価する。また発表と議論については、テーマに対して批判的・探究的な態度で臨んでいるか、質疑や発言の内容は建設的な議論を促しているかなどの観点から評価する。なお、演習の無断欠席（特に担当日）は大幅に減点する。演習内で学生が作成したレポート（作成途中のものも含む）については、演習内で随時、修正箇所の指摘やアドバイス等、コメントする。							
授業の概要							
本授業では、受講者が各自テーマを設定し、テーマに関わる情報を収集し、課題レポートの作成、発表、議論を行う。なお、授業の進め方については受講者の人数等により若干変更する場合がある。この授業の標準的な1コマあたりの授業外学修時間は、45分である。							
教科書・参考書							
教科書：特に指定しない。 参考書：井下千以子『思考を鍛える 大学の学び入門』慶応義塾大学出版会（2017） 指定図書：松本茂・河野哲也『「読む・書く・プレゼン・ディベート」の方法』玉川大学出版部（2007） 白井利明・高橋一郎『よくわかる 卒論の書き方 第2版』ミネルヴァ書房（2013）							
授業外における学修及び学生に期待すること							
<p>※発表担当でない回も必ず資料を事前に講読し、キーワードの意味や関連資料及び新聞等を調べて演習に臨むこと。 また、議論には積極的に参加し、毎回必ず発言すること。</p> <p>※本演習は下記いずれかに該当する学生の受講を希望する。コースについては問わない。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教職課程を履修しているもの</li> <li>・日本の時事問題に関して理解を深めたいもの</li> <li>・子どもや教育の問題について関心のあるもの</li> <li>・論理的な思考法や論理的な文章作成法を学びたいもの</li> </ul> <p>※本演習の受講者には「教育学」の受講を勧める。また留学生の受講も歓迎するが、日本社会や日本の教育に関してある程度の知識があることを前提として授業を進める点を十分理解した上での受講を勧める。</p>							



回	テーマ	授業の内容	予習・復習
1	オリエンテーション	自己紹介、演習の進め方を説明する。	予) シラバスの確認
2	前学期の省察と本学期の目標設定	ホスピタリティ・ルーブリックを用いて前学期の省察を行い、それを基に本学期の目標を設定する。またそれを基に教員と個別面談を行う。	予) 前学期の省察と本学期の目標設定 復) 本学期の目標の確認
3	論評会①	夏季休暇中の課題であった課題図書の論評会を行い、各自が課題図書について作成したレジュメを用いて発表する。	予) 発表レジュメの作成 復) 議論を振り返る
4	論評会②	夏季休暇中の課題であった課題図書の論評会を行い、各自が課題図書について作成したレジュメを用いて発表する。	予) 発表レジュメの作成 復) 議論を振り返る
5	問いを設定する①	本演習の課題レポートとして取り組むテーマを各自が大まかに設定し、テーマに関わる新聞記事について発表する。	予) レポートテーマの検討と新聞記事の収集 復) 議論の振り返り
6	問いを設定する②	レポートで調べていきたい具体的な問いを抽出する。	予) レポートの問いを考える 復) 作業の継続
7	レポート作成手法を修得する	レポートの構成、作成方法、調査手順を説明する。情報収集(文献・インターネット等)の方法を説明する。	予) レポートの作成方法を調べてくる 復) レポート作成方法の復習
8	基礎知識を修得する①	問いに関わる基本的事項を洗い出す。	予) レポート作成に必要な基本的事項を考える 復) 作業の継続と見直し
9	基礎知識を修得する②	問いに関わる基本的事項を調べ、整理する。	予) レポート作成に必要な基本的事項を調べる 復) 作業の継続と見直し
10	レポートを構成する	レポートの構成を考え、必要な資料やデータを考える。	予) レポートの構成を考える 復) 資料やデータの収集
11	情報を収集・分析・考察する①	問いに関わる資料やデータを収集・分析し、考察する。	予) 資料やデータの講読 復) 分析の継続
12	情報を収集・分析・考察する②	問いに関わる資料やデータを収集・分析し、考察する。	予) 資料やデータの講読 復) 分析の継続
13	レポートを作成する②	レポート作成作業	予) レポートの作成 復) レポート作成作業の継続
14	レポートを作成する③	レポート作成作業	予) レポートの作成 復) レポート作成作業の継続
15	発表・議論する①	レポートを発表し、発表内容について議論する。春のオリエンテーション日程等を確認する。	予) 発表準備

授業科目(ナンバリング)	専門演習ⅡB (CF302)			担当教員	尾場 均		
展開方法	演習	単位数	1単位	開講年次・時期	3年・後期	必修・選択	必修
授業のねらい							アクティブラーニングの類型
長崎県佐世保市をテーマに放送用プロ機材を使った映像作成とFM放送の実践をおこない、番組を制作、放送でメディアリテラシーを学ぶ。関連する資格取得を目指す。観光の情報発信の手段として調査やイベントの企画・実施等のソフト的な取り組みと、観光に関わる基礎的知識を有し、観光情報を取材という形式で自ら調べて、放送で発信する能力を取得する。まちづくりイベントを起案し実践する前年度は映像作成・佐世保市との協働によるイベント企画運営・地域イベントの実践などをおこなう。							⑥ ⑪
ホスピタリティを構成する能力	学生の授業における到達目標				評価手段・方法	評価比率	
専門力	伝えたい情報を適切に判断し、正しく伝達することができる				課題提示に対する個人によるプレゼンテーション	30%	
情報収集、分析力	情報機器の操作やネット関連の技術習得、情報コンテンツの作成ができる。観光情報の発信を通じて、メディアリテラシーを理解することができる				企画・番組内容	40%	
コミュニケーション力	情報発信とイベントに関心を持ち、専門演習での活動に意欲的に参加することができる。				授業態度・活動への参加度	20%	
協働・課題解決力	積極的に話し合いをし、自分から働きかける力を身につけることができる。				課題提示に対するチームによるプレゼンテーション	10%	
多様性理解力							
出席					受験要件		
合計					100%		
評価基準及び評価手段・方法の補足説明							
活動への積極的な参加態度、グループディスカッションでの内容、ポートフォリオ・Webによる情報交換の活用度、地域連携活動、映像などの制作・ラジオ番組に必要な取材および原稿内容と発表内容を評価する。情報コンテンツの理解と開発内容、検定試験への取り組み、ポートフォリオ・Webによる情報交換の活用、地域における調査やイベントの企画・実施等のフィードバックは、ポートフォリオを通して行う							
授業の概要							
インターネット等の新しい技術を使って観光情報について実践で学ぶため、必ず個人の情報機器を使用する。企画やディスカッション、プログラム開発は演習室にて自分の情報機器でおこなう。まちづくりや放送に関する演習は中心市街地に設けられた放送スタジオ、および現地にて実施する。この授業の標準的な1コマあたりの授業外学修時間は、45分とする。							
教科書・参考書							
教科書：なし 参考書：なし 指定図書：『話すチカラをつくる本（知的生きかた文庫）』三笠書房							
授業外における学修及び学生に期待すること							
授業外で多くの活動を実施するが、欠席なく積極的に参加することを期待する。情報機器や放送機器の活用により、情報コンテンツの企画力・実践力を身につけ、まちづくりや地域振興に関係する人々と出会い、一緒に参加し専門知識や社会人基礎力を身につけることを期待する。 ※本演習を選択するものは次のコースを履修すること。 観光マネジメント スポーツツーリズム グローバルツーリズム							

回	テ ー マ	授 業 の 内 容	予 習 ・ 復 習
1	専門演習の導入	演習の説明および授業における到達目標の決定 検定試験への準備（内容把握）	予：事前に研究室ホームページを参照し活動内容を理解
2	資格試験対策・面談	資格試験対策のポートフォリオ・Webの演習 個人目標設定のための面談を実施する	予：資格の調査分析
3	施設拠点の活用	中心市街地のコミュニティを活用に関する計画を考える	予：コミュニティに集まる人々を分析する
4	ポートフォリオ・Web 演習・面談	コミュニケーション用ポートフォリオ・Webの演習 個人目標設定のための面談を実施する	予：SNSの登録とメールアドレスを確認と事前準備
5	イベントデザイン準備	イベント実施のための調査・取材実践。計画書の作成	予：イベントテーマの決定
6	情報発信	まちづくりに関する活動の発信を实践	予：コンテンツを選び、発信準備をする
7	イベント企画	イベント企画事例調査と研究 (情報コンテンツの開発を含む)	予：事例研究・分析
8	プレゼン作成とデータ管理	高度なツールを使った文書作成とグラフィックスの演習	予：アプリケーションの動作確認
9	プレゼンテーション	プレゼンテーションの实践と他者との評価	予：話し方・姿勢・内容を確認する
10	イベント制作・情報発信	イベント実施のための調査・取材実践。イベント企画書の作成	予：企画書の確認
11	SNS・Web オープンソース	SNS・Webの操作・管理、コンテンツ作成	予：指定サイトの参照
12	イベント企画確認	イベント企画を再確認、グループ同士で評価する	予：プレゼンデータの確認とポートフォリオへの提出
13	イベント実践準備	イベント企画の準備とタイムスケジュールの事前シミュレーションを行う	予：開始・終了、人員配置などの確認をする。
14	事前イベント企画発表	グループでの具体的なイベントを企画し発表する	予：作成原稿の確認と読み合わせ。事前確認・練習
15	イベント企画発表	具体的なイベントを企画し発表する (商品開発やまちづくりプランなど)	予：事前確認・練習

授業科目(ナンバリング)	専門演習ⅡB (CF302)			担当教員	佐野 香織		
展開方法	演習	単位数	1 単位	開講年次・時期	3年・後期	必修・選択	必修
授業のねらい							アクティブ・ラーニングの類型
本演習では、ことば、文化、社会の教育・学習のうち、「教育」に焦点をあて、多文化社会における多様な人への言語教育・日本語教育について学ぶ。模擬授業の経験、国内外で活躍する教育者へのインタビューを通して、教育観を培う。							①④⑤⑦⑩
ホスピタリティを構成する能力	学生の授業における到達目標				評価手段・方法	評価比率	
専門力	多文化社会における多様な人への言語教育・日本語教育の教育観を培うことができる				レポート	25 %	
情報収集、分析力	言語教育・日本語教育に関する基礎知識を理解し、考察することができる				事前(課題)事後(ワークシート)学習	35 %	
コミュニケーション力	教育者へのインタビューを通して教育観を知ることができる				インタビュー	20 %	
協働・課題解決力	模擬授業を通して、言語教育・日本語教育の課題を協働で学ぶことができる				ディスカッション	10 %	
多様性理解力	クラス、グループの多様性を認め受容する力を養う姿勢を持つことができる。				相互評価 自己評価	10 %	
出 席					受験要件		
合 計					100%		
評価基準及び評価手段・方法の補足説明							
事前・事後学習(課題、ワークシート)で35%、言語教育・日本語教育の教育観に関する学び(インタビュー、レポート、自己相互評価)で45%、模擬授業(ディスカッション、自己相互評価)で20%として評価する。							
授業の概要							
本演習では、今まで自分が受けてきた教育指導、言語学習・言語教育の経験を協働でふりかえりながら、日本語教育に焦点をあて、これからの多文化共生社会での「教える」姿勢を考え、検討していく。①テキストを中心に行う学習、②模擬授業、③教育者へのインタビュー、の3つのパートで演習をすすめる。スケジュールは変更することがある。この授業の標準的な1コマあたりの授業外学修時間は、45分とする。							
教科書・参考書							
教科書：森篤嗣(編著)(2019)『超基礎日本語教育』くろしお出版 参考書：庵功雄(監)(2010)『にほんごこれだけ!1』ココ出版 指定図書：義永未央子ほか(編著)(2019)『ことばで社会をつなぐ仕事—日本語教育者のキャリア・ガイド—』凡人社							
授業外における学修及び学生に期待すること							
このゼミは、様々な観点から「日本語」「ことば」「教育」「学習」について考え、ことばをつくり、人と社会をつなぐ実践をしてみたい学生を対象としています。教職課程を履修している学生、「ことば」と「学び」に興味がある学生の受講を期待します。留学生が受講する場合は、自分のことばでまとめながらディスカッションできること、インタビューをし、レポート執筆できる日本語力が必要です。							

回	テ ー マ	授 業 の 内 容	予 習 ・ 復 習
1	前学期の省察と今学期の目標設定（個人指導）	専門演習ⅡAの学びを省察し、今学期の見通し、個人目標をたてる。	予習：個人ポートフォリオの作成 復習：個人ポートフォリオの見直し
2	オリエンテーション	本演習の目的、方法論の説明 目標、スケジュール、課題の確認 言語教育・日本語教育とはなにか	予習：これまでの外国語教育経験について言語化できるようにしてくる
3	模擬授業の実践と評価 ①	指定された内容で模擬授業を考え、実際に行う。	復習：省察シート
4	模擬授業の実践と評価 ②	模擬授業①を協働省察し、言語教育、日本語教育で扱う観点の確認をする。	予習：模擬授業の経験をわかりやすく話せるようにしてくる
5	さまざまな教授法	言語教育における教授法を概観し、具体的な方法を知る。	予習：教科書の課題を考えてくる。 復習：ワークシート
6	授業の流れを考える	教える構成、理念を確認し、なぜ、何を、どのように教えるのか考える。	予習：教科書の課題を考えてくる。 復習：ワークシート
7	学習レベルと教材・教具	実際の教材・教具の観察、分析をする	予習：教科書の課題を考えてくる。 復習：ワークシート
8	言語能力の測定と評価	これまでの能力観、測定方法と評価について概観し、今後のあり方について考える	予習：教科書の課題を考えてくる。 復習：ワークシート
9	模擬授業の実践と評価 ③	指定された内容で模擬授業を考え、実際に行う。	予習：指定課題の模擬授業案を考えてくる 復習：省察シート
10	模擬授業の実践と評価 ④	模擬授業について内省、協働省察する	予習：省察シート確認 復習：省察ノート執筆
11	教育者インタビュー活動①	インタビュー活動について説明し、報告方法、レポート作成について確認する。 インタビュー相手、インタビュー方法を確認する	予習：指示する資料を読み、インタビューのイメージを掴む 復習：インタビュー概要 インタビュー依頼
12	教育者インタビュー活動② 個人指導	インタビュー活動進捗状況を確認する	予習：インタビュー実施、 インタビュー活動進捗報告
13	教育者インタビュー活動③ 個人指導	インタビュー活動報告レジюме作成	予習：インタビューレジюме作成 復習：インタビューレジюме修正
14	教育者インタビュー活動④ 報告	各自のインタビューについて報告、ディスカッションを行う	予習：インタビューレジюме完成 復習：インタビューレジюме最終版提出
15	ふりかえり	1年をふりかえり、各自の言語観、教育哲学について内省、協働省察する 卒業論文の研究テーマ案を考える	インタビューレポート作成 個人ポートフォリオ記入

授業科目(ナンバリング)	専門演習ⅡB(CF302)			担当教員	城前奈美		
展開方法	演習	単位数	1単位	開講年次・時期	3年・後期	必修・選択	必修
授業のねらい							アクティブラーニングの類型
<b>テーマ：「観光の経済社会への影響」について事例研究をしよう。</b> 1つの研究テーマを決定し、その研究テーマに関して先行研究を調べ、研究調査を実践し、報告書を作成し、報告する。この一連の研究過程を通して、研究とはどのようなものかを学び、卒業研究に臨む準備を整える。							⑥
ホスピタリティを構成する能力	学生の授業における到達目標				評価手段・方法	評価比率	
専門力	観光経済学や観光社会学の諸理論について理解できる。				ディスカッション	30%	
情報収集、分析力	分野における先行研究を収集することができる。先行研究を解題することができる。				課題提出	40%	
コミュニケーション力	議論に積極的に参加し、貢献できる。				ディスカッション	20%	
協働・課題解決力	研究調査のテーマを設定でき、適切な研究手法を用いることができる。				プレゼンテーション	10%	
多様性理解力							
出席					受験要件		
合計					100%		
評価基準及び評価手段・方法の補足説明							
課題提出はワード文書とし、発表は、パワーポイント資料を用いて行う。また、その提出方法は、ポートフォリオを使用するため、ネットワーク環境があることを前提とする。 課題提出においては、提出期日を守っているか、体裁が整っているか、論理構造が整っているか等も評価する。発表においては、聞き手に分かりやすく発表しているか、資料の提示が適切か、質問に的確に答えられるか等も評価する。ディスカッションにおいては、積極的に議論に参加しているか、議論を建設的に組み立てているか等を評価する。							
授業の概要							
各自が研究テーマを決め、その研究テーマに関する先行研究をまとめ、独自の調査内容を決めて、調査を実行する。調査結果を集計し、分析し、報告書をまとめ、発表報告し、一連の研究について討論する。 この授業の標準的な1コマあたりの授業外学修時間は、45分とする。							
教科書・参考書							
教科書：A・ブル（1998）『旅行・観光の経済学』文化書房博文社 指定図書：A・ブル（1998）『旅行・観光の経済学』文化書房博文社							
授業外における学修及び学生に期待すること							
欠席や遅刻をする場合は、必ず事前に連絡をすること。また、自主的に積極的に協力して学んでいくこと。 ※本演習を選択するものは、次のコースもしくは専修課程を履修することが望ましい。 観光マネジメント、グローバルツーリズム、スポーツツーリズム、旅行業務取扱管理者養成課程							

回	テ ー マ	授 業 の 内 容	予 習 ・ 復 習
1	オリエンテーション 省察、個人目標の設定	ゼミ概要やスケジュールについて、オリエンテーションする。前期の学修成果を省察し、後期の個人目標設定のための面談を実施する。	ルーブリック入力
2	省察、個人目標の設定	前期の学修成果を省察し、後期の個人目標設定のための面談を実施する。	ルーブリック入力
3	研究(1)研究テーマの設定	研究する研究の目的を明らかにし、研究テーマを設定する。	研究テーマに関する先行研究を収集する。先行研究を解題しまとめる。
4	研究(2)先行研究調査	研究テーマに関する先行研究を収集し解題し報告する。	調査内容について案を作成する。
5	研究(3)調査内容の決定	研究テーマに基づき、調査内容を決定する。	有効な調査方法、役割分担を検討する。
6	研究(4)調査方法の検討	調査方法を学び、有効な調査方法を確定する。	調査計画を検討する。
7	研究(5)調査	フィールドワークを実施する。	調査計画を定める。
8	研究(6)調査データの確認作業	調査データをチェックする方法を学び、チェックする。	入力作業をする。
9	研究(7) 調査結果の集計	調査結果を集計し、まとめる。	入力作業をする。
10	研究(8)分析	集計した結果から各種効果を算出する。	調査結果をまとめる。
11	研究(9)分析結果の検討	各種効果について討論する。	分析結果をまとめる。
12	研究(10)報告書の作成	報告書の構成および作成分担を決定する。報告書作成上のグラフ、脚注、参考文献の記述方法を学ぶ。	報告書の構成を考える。
13	研究(11)報告書の作成	発表用のパワーポイント資料を作成する。	資料を作成する。
14	研究(12)研究発表	一連の研究をプレゼンテーションし、ディスカッションする。	発表に向けた原稿を作成する。質疑応答対策をする。
15	研究(13)研究の振り返り	一連の研究を振り返り、研究の成果と研究の課題を振り返る。	研究を振り返る。

授業科目(ナンバリング)	専門演習ⅡB (CF302)			担当教員	新藤 照夫		
展開方法	演習	単位数	1単位	開講年次・時期	3年・後期	必修・選択	必修
授業のねらい							アクティブ・ラーニングの類型
異文化コミュニケーションと英語圏と日本の文化比較をテーマとした授業を展開する。関連する理論やケーススタディを踏まえながら、観光分野でも求められる円滑な異文化コミュニケーションの知識やスキルの習得を目指すとともに、様々な言語メディアや文化要素を取り扱うことによって、卒業研究のテーマの探求も行う。							④⑤⑥⑩
ホスピタリティを構成する能力	学生の授業における到達目標			評価手段・方法		評価比率	
専門力	<ul style="list-style-type: none"> <li>異文化コミュニケーションについての基礎理論や英語の専門用語を理解し、具体例を挙げて簡潔に説明できる。</li> <li>専門知識を活かし、調査した内容をまとめ、発表できる。</li> </ul>			・プレゼンテーション		30%	
情報収集、分析力	<ul style="list-style-type: none"> <li>異文化コミュニケーションや文化比較の事例を収集し、分類できる。</li> <li>調査した内容をレポートにまとめることができる。</li> </ul>			・レポート		40%	
コミュニケーション力	<ul style="list-style-type: none"> <li>テーマに対しアサーティブなディスカッションを実践できる。</li> </ul>			・ディスカッション		20%	
協働・課題解決力	<ul style="list-style-type: none"> <li>グループワークによって、与えられたテーマに対する解決法を導き出すことができる。</li> </ul>			・グループワーク参加度		10%	
多様性理解力							
出席				受験要件			
合計				100%			
評価基準及び評価手段・方法の補足説明							
<ul style="list-style-type: none"> <li>プレゼンテーションによって、調査した内容について、習得した専門知識を活用した発表を行う。(30%)</li> <li>レポートを課し、専門知識の理解度やスタディスキルの習得度を評価する。(40%)</li> <li>ディスカッションにおけるコミュニケーション力を評価する。(20%)</li> <li>授業時の学修状況やグループワークの参加度合を評価する。(10%)</li> <li>レポート、プレゼンテーション、グループワークに対して、ポートフォリオおよび授業時にフィードバックを行う。</li> </ul>							
授業の概要							
<p>この授業では、異文化コミュニケーションのケーススタディや異文化トレーニングに関する英語教材を使用し、英語を通じて異文化コミュニケーションの理論やスキルの習得を図る。また、レポート作成、グループワーク、ディスカッション、プレゼンテーションによって、スタディスキルやコミュニケーションスキルの向上も図る。</p> <p>この授業の標準的な1コマあたりの授業外学修時間は、45分とする。</p>							
教科書・参考書							
<p>教科書：『Speaking of Intercultural communication』Peter Vincent 著（南雲堂）</p> <p>参考書：『異文化トレーニング：ボーダーレス社会を生きる』八代京子 他著（三修社）</p> <p>指定図書：『Speaking of Intercultural communication』Peter Vincent 著（南雲堂）</p>							
授業外における学修及び学生に期待すること							
<ul style="list-style-type: none"> <li>授業では、遅刻、無断欠席、途中退室などない積極的な参加を強く求めていく。</li> <li>日常生活の中で、文化背景の異なる他者との異文化コミュニケーションや文化比較に強い関心を持ってもらいたい。</li> </ul>							



回	テ ー マ	授 業 の 内 容	予 習 ・ 復 習
1	前学期の省察と本学期の目標設定	前学期の省察を行い、それを基に本学期の目標を設定する	・予習:前学期の省察と本学期の目標設定の下書き ・復習:本学期の目標設定の清書
2	Diversity ①	多様性についての解説、ディスカッション	・予習:Unit 7 Reading, Activity 1 ・復習:Unit 7 Reading, Activity 1
3	Diversity ②	多様性を題材としたペアワーク、グループワーク	・予習:Unit 7 Activity 2-5 ・復習:Unit 7 Activity 2-5 ポートフォリオの回答
4	Stereotype ①	ステレオタイプについての解説、ディスカッション	・予習:Unit 8 Reading, Activity 1 & 2 ・復習:Unit 8 Reading, Activity 1 & 2
5	Stereotype ②	ステレオタイプを題材としたペアワーク、グループワーク	・予習:Unit 8 Activity 3-6 ・復習:Unit 8 Activity 3-6 ポートフォリオの回答
6	Culture Shock ①	カルチャーショックについての解説、ディスカッション	・予習:Unit 9 Reading, Activity 1 & 2 ・復習:Unit 9 Reading, Activity 1 & 2
7	Culture Shock ②	カルチャーショックを題材としたペアワーク、グループワーク	・予習:Unit 9 Activity 3-5 ・復習:Unit 9 Activity 3-5 ポートフォリオの回答
8	Culture and Change ①	文化と変化についての解説、ディスカッション	・予習:Unit 10 Reading, Activity 1 ・復習:Unit 10 Reading, Activity 1
9	Culture and Change ②	文化と変化を題材としたペアワーク、グループワーク	・予習:Unit 10 Activity 2-4 ・復習:Unit 10 Activity 2-4 ポートフォリオの回答
10	Talking about Japan ①	日本の文化についての解説、ディスカッション	・予習:Unit 11 Reading, Activity 1-3 ・復習:Unit 11 Reading, Activity 1-3
11	Talking about Japan ②	日本の文化を題材としたペアワーク、グループワーク	・予習:Unit 11 Activity 4-8 ・復習:Unit 11 Activity 4-8 ポートフォリオの回答
12	Becoming a Global Person ①	グローバル人材についての解説、ディスカッション	・予習:Unit 12 Reading, Activity 1 ・復習:Unit 12 Reading, Activity 1
13	Becoming a Global Person ②	グローバル人材を題材としたペアワーク、グループワーク	・予習:Unit 12 Activity 2-6 ・復習:Unit 12 Activity 2-6 ポートフォリオの回答
14	レポート作成	テーマに関するレポート作成	・予習:レポートの下調べ ・復習:レポートの仕上げ、プレゼン資料の作成
15	プレゼンテーション	テーマに関する発表	・予習:プレゼンのリハーサル ・総復習、レポート提出

授業科目(ナンバリング)	専門演習ⅡB (CF302)			担当教員	早坂 昌彦		
展開方法	講義	単位数	2単位	開講年次・時期	3年・後期	必修・選択	必修
授業のねらい							アクティブラーニングの類型
<p>専門演習ⅡAにおいて、学生は問題解決の技能を身に付けた。それを踏まえ、この半期の専門演習ではいよいよ「問題発見」の技能を身に付けることを目標とする。学生が社会に出て、将来部下を持つようになれば、問題解決の技能だけでは足りない場面が出てくる。なぜなら、今日に見える問題を解決しただけでは、マイナスがゼロになるだけだからである。周りの環境も常に変化している以上、目に見えない未来を見据え自ら真の問題を「発見」し、先手を打って、組織・チームを導いていくことが必要になる。</p> <p>実はこの「問題発見」の分野は一つの正解というものが出にくく、よってその技能を身に付けることは一般的に難易度が高いと言われており、社会人でも十分にできていない人が多い。だが、この技能を自由自在に使いこなせることができれば、圧倒的に仕事が速くなり、チーム、組織で目立った活躍をすることができるだろう。また、次年度の専門演習Ⅲでは卒業論文を執筆してもらうことになるが、その際にまず求められるのが、まさにこの「問題発見(及び仮説設定)」の技能である。ひょっとすると、多くの学生にとっては現時点でこの技能を身に付けることは困難かもしれない。が、私の専門演習ではそれに臆することなく挑戦し、もし学生時代に消化不良になったとしても、将来社会人になったときにこの経験を思い出し、学び直してもらえれば良しとしたい。</p> <p>よって、この半期では、問題発見に特化した反復演習を行う。具体的には、毎回、別々のメンバーとチームを組んでもらい、冒頭で提示した「現象」に関し、チームで真に解決または明らかにすべき問題を考え、その成果をプレゼンテーションしてもらう。この演習が終了し、次学年に進めば、学生はスムーズに卒業論文の準備を開始できるものと期待している。</p> <p>なお、上記が全受講者共通の内容であるが、同時に、3つのチーム(①観光事業・IRチーム、②地域振興チーム、③起業・新規事業チーム)に分かれ、別途自主的な活動を行い、定期的にこの場でチーム毎に活動内容をプレゼンしてもらう。</p>							⑤⑦⑩
ホスピタリティを構成する能力	学生の授業における到達目標				評価手段・方法	評価比率	
専門力	毎回、専門的なある「現象」に対し真の問題を発見するトレーニングを行う。チームで短期間に意見をまとめショートプレゼンテーションを行うことができる。				毎回のショートプレゼンテーション	40%	
情報収集、分析力	ある「現象」に関し、チームで一定期間情報収集・分析を行い、解決、明らかにすべき真の問題を明らかにし、プレゼンテーションを行うことができる。				2回のプレゼンテーション	60%	
コミュニケーション力							
協働・課題解決力							
多様性理解力							
出席					受験要件		
合計					100%		
評価基準及び評価手段・方法の補足説明							
<p>評価は、毎回演習の中で行ってもらうショートプレゼンテーションと、2回のプレゼンテーションの内容に基づき行う。またその評価はチーム毎に行う。なお、毎回の演習での参加態度および自主的な活動も含めた演習の運営に関する態度も加味する。</p>							
授業の概要							
<p>基本的な進め方として、毎回の演習を次の2つの時間帯に分け、進めていく。</p> <p>① 毎回別々の3人程度のチームを作り(チームは教師がランダムにアレンジする)、A4 1枚程度の文書(例:新聞の社説)を読んでもらい、その場でチームとしての考えをまとめ、ショートプレゼンテーションを行ってもらう。</p> <p>② 各チーム(①観光事業・IRチーム、②地域振興チーム、③起業・新規事業チーム)毎に、活動状況に関するプレゼンテーションをしてもらう。</p> <p>ただし、詳細な進め方は、学生の希望・関心、負担感等を踏まえ、微調整することがあり得る。</p> <p>なお、演習での個々の問題発見に取り組むにあたり、経営学等の知識が必要になる場合がある。その場合は、適宜教師が補足の情報提供または補講を行う。</p>							
教科書・参考書							
<p>教科書/参考書:特に指定しない。必要な資料等は演習時に配布する。</p> <p>指定図書:内田和成「仮説思考」東洋経済新報社</p>							
授業外における学修及び学生に期待すること							
<p>この演習では当然ながら各学生の主体的な取り組みが必須である。主体的に取り組むためには、各学生がこの演習の内容が自分の関心事項であるか、将来役に立つと思える必要がある。よって、そう思えない場合は、その旨教師や演習の仲間に伝え、改善を求める必要がある。このように、演習の運営にも自分事として主体的に関わっていくことが期待されている。その経験は、学生が社会に出てから必ず役に立つ。</p>							

回	テーマ	授業の内容	予習・復習
1	全体の導入	ⅡAの取組みを振り返った後、ⅡBでどのような演習を運営していくのか等を確認する。	予習：専門演習ⅡAの目標達成度を自己評価しておく。
2	個人面談・目標設定	演習を開始するにあたって、個々の学生の興味のある方の確認や、個人目標の設定等を行う。	予習：キャリアワークシートに記入する。
3	専門演習ⅡAのおさらい	専門演習ⅡAで学んだことのおさらいする	復習：演習の資料を再読する。
4	「問題解決」演習①	上記授業の概要に基づき、「問題発見力」を身に付けるための演習を行う。	復習：演習の資料を再読する。
5	「問題解決」演習②	上記授業の概要に基づき、「問題発見力」を身に付けるための演習を行う。	復習：演習の資料を再読する。
6	「問題解決」演習③	上記授業の概要に基づき、「問題発見力」を身に付けるための演習を行う。(プレゼンテーション①の課題とチームリストを提示する)	復習：演習の資料を再読する。
7	「問題解決」演習④	上記授業の概要に基づき、「問題発見力」を身に付けるための演習を行う。	予習：プレゼンテーション①の準備 復習：演習の資料を再読する。
8	「問題解決」演習⑤	上記授業の概要に基づき、「問題発見力」を身に付けるための演習を行う。	予習：プレゼンテーション①の準備 復習：演習の資料を再読する。
9	プレゼンテーション①	プレゼンテーション①の発表を行う。	予習：レポート①の発表の準備 復習：発表の資料を再読する
10	「問題解決」演習⑥	上記授業の概要に基づき、「問題発見力」を身に付けるための演習を行う。	復習：演習の資料を再読する。
11	「問題解決」演習⑦	上記授業の概要に基づき、「問題発見力」を身に付けるための演習を行う。	復習：演習の資料を再読する。
12	「問題解決」演習⑧	上記授業の概要に基づき、「問題発見力」を身に付けるための演習を行う。(プレゼンテーション②の課題とチームリストを提示する)	復習：演習の資料を再読する。
13	「問題解決」演習⑨	上記授業の概要に基づき、「問題発見力」を身に付けるための演習を行う。	予習：プレゼンテーション②の準備 復習：演習の資料を再読する。
14	「問題解決」演習⑩	上記授業の概要に基づき、「問題発見力」を身に付けるための演習を行う。	予習：プレゼンテーション②の準備 復習：演習の資料を再読する。
15	プレゼンテーション②、まとめ	プレゼンテーション②の発表を行う。 半期の演習の成果を振り返る。	予習：演習の成果を振り返る。 復習：発表の資料を再読する。

授業科目(ナンバリング)	<b>専門演習ⅡB (CF302)</b>			担当教員	宮良 俊行		
展開方法	演習	単位数	1単位	開講年次・時期	3年・後期	必修・選択	必修
授業のねらい							アクティブラーニングの類型
<p>本ゼミでは、「専門演習ⅠA」、「専門演習ⅠB」で学習した「総合型地域スポーツクラブ」の基礎知識をもとに、学生たちが主体となってディスカッションやグループワークを行いながら、スポーツイベントを企画・実施できるようになることを目指す。実践の場として、「チャレンジスポーツ」の指導や「スポーツフェスタ」の広報から企画運営まで、スポーツイベントに主体的に取り組み学修することをねらいとしている。</p>							④、⑤、⑥、⑦、⑩、⑪
ホスピタリティを構成する能力	学生の授業における到達目標				評価手段・方法	評価比率	
専門力	総合型地域スポーツクラブのことを説明することができる。また、スポーツイベントの運営を補助することができる。				・受講者の発表 ・企画書、発表資料の作成	15% 20%	
情報収集、分析力						%	
コミュニケーション力						%	
協働・課題解決力	地域のスポーツイベントにボランティアとして活動することができる。また、地域スポーツの課題・問題点を発見し指摘することができる。				・受講者の発表 ・企画書、発表資料の作成 ・課題レポート	15% 20% 30%	
多様性理解力						%	
出席					受験要件		
合計					100%		
評価基準及び評価手段・方法の補足説明							
<p>課題レポートについては、理論的かつ実践的な内容をもつように書くことができたかを評価する。また、文字数不足および誤字・脱字は、減点の対象とする。授業態度・授業への参加については、発表の内容と討論への参加度合を評価する。ポートフォリオで課題レポートのフィードバックを行うので確認すること。</p>							
授業の概要							
<p>年間を通して、「総合型地域スポーツクラブ」に関する資料を購読し、基礎知識を習得し、問題意識を高めていく。また、グループワークを通して、全員で議論ができるようになることを目指す。この授業の標準的な1コマあたりの授業外学修時間は、180分とする。</p>							
教科書・参考書							
<p>教科書：『地域を変えた 総合型地域スポーツクラブ』山口 泰雄 大修館書店 参考書：授業の中で指示する。 指定図書：『スポーツマネジメント論』吉田良治 昭和堂</p>							
授業外における学修及び学生に期待すること							

各地域で活動している総合型地域スポーツクラブに出向きボランティア活動を積極的に実施し、社会貢献して欲しい。また、指定された教科書を事前に読んでおくこと。  
 ※本演習を選択するものは次のコースを履修することが望ましい  
 スポーツツーリズム

回	テーマ	授業の内容	予習・復習
1	後期の導入	後期の具体的事例の研究についてオリエンテーションを行う。	先行文献を調べ、レジюмеを作成する。
2	スポーツイベント企画準備①	スポーツイベント企画書作成を学習する。	前回のレジюмеを熟読してくる。今回使用する資料を熟読してくる。
3	スポーツイベント企画準備②	スポーツイベント運営の段取りを学習する。	前回の資料を復習する。今回使用する資料を熟読してくる。
4	スポーツイベント企画準備③	スポーツイベントの広報作成を行う。	前回の資料を復習する。スポーツイベントのチラシ作成案を作ってくる。
5	スポーツイベント企画準備④	スポーツイベントの開会式、閉会式のリハーサルを行う。	スポーツイベントの開会式、閉会式のシミュレーションしてくる。
6	スポーツイベント企画準備⑤	スポーツイベントのプログラムに関するリハーサルを行う。	スポーツイベントのプログラムをシミュレーションしてくる。
7	スポーツイベントの実践①	「スポーツフェスタ」を実施する。	「スポーツフェスタ」の実践
8	スポーツイベントの実践②	「スポーツフェスタ」を実施する。	「スポーツフェスタ」の実践
9	スポーツイベントの振り返り①	「スポーツフェスタ」の参加者アンケート結果を分析する。	イベントの反省をまとめてくる。
10	スポーツイベントの振り返り②	「スポーツフェスタ」の参加者アンケート結果を基にして反省会を行う。	イベントの反省をまとめてくる。
11	卒業論文作成準備①	卒業論文の書き方を学習する。	前回のレジюмеを熟読してくる。今回使用する資料を熟読してくる。
12	卒業論文作成準備②	卒業論文の書き方を修得する。	前回の資料を復習する。今回使用する資料を熟読してくる。
13	卒業論文作成準備③	卒業論文の仮テーマを決定する。	前回の資料を復習する。卒業論文の仮テーマを決めてくる。
14	卒業論文作成準備④	卒業論文の作成計画書を作成する。	前回の資料を復習する。卒業論文の作成計画書の作成準備を行う。
15	まとめ	年間を通じたゼミ活動を振り返り、その成果を確認する。	前回のレジюмеを熟読してくる。先行文献を調べ、レジюмеを作成する。

授業科目(ナンバリング)	専門演習ⅡB (CF302)			担当教員	山内 美穂		
展開方法	演習	単位数	1単位	開講年次・時期	3年・後期	必修・選択	必修
授業のねらい							アクティブ・ラーニングの類型
この演習のねらいは、日本語教育に必要な言語知識を習得するとともに、それらを分かりやすく説明する力を養うことです。そのため、授業は履修者による発表を中心に進めます。日本語を音声、語彙、文法の各方面から理解し、同時に説明力を身につけましょう。							①④⑤⑥
ホスピタリティを構成する能力	学生の授業における到達目標				ホスピタリティを構成する能力	評価比率	
専門力	日本語教育に必要な言語知識を身につける。				専門力	30%	
情報収集、分析力	教科書を読み理解した上で、分かりやすく説明できる。				情報収集、分析力	50%	
コミュニケーション力	発表した内容に対し、質問やコメントができる。				コミュニケーション力	15%	
協働・課題解決力	グループメンバーと協力して発表資料を作ることができる				協働・課題解決力	5%	
多様性理解力							
出席					受験要件		
合計					100%		
評価基準及び評価手段・方法の補足説明							
自分が担当する箇所の発表で50%、発表資料で30%、発表後のディスカッションへの参加度で15%、発表準備の状況で5%を評価します。発表に対しては授業中または個別にコメントしフィードバックします。							
授業の概要							
前半は教科書を読みそれを簡潔にまとめ発表する練習をします。毎回の授業の予習として、教科書の各テーマについてよく読んでください。発表者は担当箇所のテーマの資料を作成して説明し、発表者以外の方はコメント・質問し、全員でディスカッションします。後半は、卒業研究のテーマのヒントになりそうな「日本語学」の問題について分析したり考えたりします。この授業の標準的な1コマあたりの授業外学修時間は、45分です。							
教科書・参考書							
教科書：今井新悟ほか『いちばんやさしい日本語教育入門』アスク、2018 参考書：野田尚史ほか『日本語を分析するレッスン』大修館書店、2016 指定図書：高見澤孟ほか『増補改訂版 新・はじめての日本語教育1 日本語教育の基礎知識』アスク、2016							
授業外における学修及び学生に期待すること							
この演習は、日本語教育に必要な言語知識を体系的に学びたいと考えている人を対象にします。留学生は、教科書の内容が理解でき、自分のことばで説明できるレベルが必要です。発表者は担当箇所をしっかりと理解し、よく準備をした上で発表にのぞんでください。発表者以外の方もしっかりと該当箇所を読みこみ、質問などの準備をして授業にのぞんでください。							

回	テーマ	授業の内容	予習・復習
1	オリエンテーション	授業の進め方、発表の方法について説明。	予習：シラバスを読んでおく。
2	前学期の省察と本学期的目標設定	ゼミ担当教員と相談しながら、前学期の省察を行い、それを基に本学期的目標設定について確定する。	予習：前学期の省察と本学期的目標設定の下書き。 復習：本学期的目標設定の清書。
3	授受動詞、可能形	授受動詞、可能形について理解する。 担当者が発表し、全員でディスカッションする。	予習：教科書第3章(p127-p139)を読み、第3章の練習問題を解いておく。
4	助動詞「のだ」	助動詞「のだ」について理解する。 担当者が発表し、全員でディスカッションする。	予習：教科書第3章(p141-p149)を読み、第3章の練習問題を解いておく。
5	助詞	助詞について理解する。 担当者が発表し、全員でディスカッションする。	予習：教科書第3章(p149-p168)を読み、第3章の練習問題を解いておく。
6	テンス	テンスについて理解する。 担当者が発表し、全員でディスカッションする。	予習：教科書第3章(p169-p176)を読み、第3章の練習問題を解いておく。
7	アスペクト	アスペクトについて理解する。 担当者が発表し、全員でディスカッションする。	予習：教科書第3章(p176-p183)を読み、第3章の練習問題を解いておく。
8	ヴォイス&モダリティ	ヴォイスとモダリティについて理解する。 担当者が発表し、全員でディスカッションする。	予習：教科書第3章(p184-p195)を読み、第3章の練習問題を解いておく。
9	言語と社会	言語と社会について理解する。 担当者が発表し、全員でディスカッションする。	予習：教科書第4章を読み、第4章の練習問題を解いておく。
10	教育法①	コースデザインと教材について理解する。 担当者が発表し、全員でディスカッションする。	予習：教科書第5章(p216-p224)を読み、第5章の練習問題を解いておく。
11	教育法②	テスト評価と教室活動について理解する。 担当者が発表し、全員でディスカッションする。	予習：教科書第5章(p225-p239)を読み、第5章の練習問題を解いておく。
12	演習	グループ演習：日本語初級教科書の文型を、学んだ知識を使って分かりやすく説明する。	予習：発表準備。
13	丁寧体と普通体	文体について分析する。 問題について、全員でディスカッションする。	予習：配布プリントを読み、「文体」について考えておく。
14	外国の人の日本語	外国の人の日本語について分析する。 問題について、全員でディスカッションする。	予習：配布プリントを読み、「外国人の日本語」について考えておく。
15	まとめ	これまでの学習項目について振り返る。	予習：興味をもったテーマについて発表準備

授業科目(ナンバリング)	専門演習 IIB (CF 302)			担当教員	川上 直彦		
展開方法	演習	単位数	1 単位	開講年次・時期	3 年・後期	必修・選択	必修
授業のねらい							アクティブ ラーニング の類型
<p>人類の文明発祥の地で興った「古代オリエントと東地中海世界の文明（古代メソポタミア文明、古代エジプト文明、エーゲ文明、クレタ文明等）を考古学、そして古代史の演習（ディスカッション、グループワーク、発表）の観点から理解し、これらの文明が人類共有のかけがえのない文明であることが理解できる。また、なぜこれらの地が、人類共通の文明発祥の地であるのかを習得し、研究・観光資源である人類共通のかけがえのない文化遺産の宝庫であることが理解できる。観光として、古代オリエントと東地中海世界の文明に関連する遺跡そして博物館・美術館を訪れた時、考古学および歴史学的視点から遺跡と展示遺物を理解するに必要な専門知識を修得することができる。</p>							①⑤⑥
ホスピタリティを構成する能力	学生の授業における到達目標				評価手段・方法	評価比率	
専門力	古代オリエントと東地中海世界の文明の遺跡・遺物、そして関連する博物館・美術館に関心を抱き、専門的課題に取り組むことにより、専門力を習得することができる。				レポート・発表	25%	
情報収集、分析力	事前学習と演習を通じて実践する、文献読解から情報収集を行い、レポートを作成することにより、読解力、分析力、そしてレポートを書く能力を習得することができる。				レポート・発表	25%	
コミュニケーション力	レポート発表を課し、発表に対する質疑応答と討議を実践することにより、コミュニケーション能力を上達させることができる。				発表	20%	
協働・課題解決力	古代オリエントと東地中海世界の文明に関連する遺跡と世界中の博物館に収蔵されている展示遺物の考古学および歴史学的意味についての発表と、発表に対する質疑応答を通じて他学生と協議することにより協働・課題解決力を習得することができる。				授業参加度	30%	
多様性理解力						%	
出席					受験要件		
合計					100%		
評価基準及び評価手段・方法の補足説明							
各自、3本のレポート作成とそれらの発表を実践し、発表内容および発表のスキルを総合的に評価し、全体評価の70%とする。フィードバックは、個別に口頭で行う。							
授業の概要							
本演習では、人類共通の文明発祥の地に興った古代オリエントと東地中海世界の核をなすメソポタミア文明を中心に、古代エジプト文明、エーゲ文明、そしてクレタ文明等にもふれ、文献購読と配布資料を用いた演習を実施する。演習内容が十分に理解できるように、補足的に講義を実践し、また、DVDなどの視聴覚教材も補助教材として用い演習を実践する。この授業の標準的な1コマあたりの授業外学修時間は、45分とする。							
教科書・参考書							
教科書：適宜プリントを配布する。 参考書：適宜プリントを配布する。 指定図書：世界の歴史1：人類の起源と古代オリエント（大貫良夫・前川和也・渡辺和子・屋形複貞、中央公論社）							
授業外における学修及び学生に期待すること							
古代史・考古学全般に関心をもち、遺跡や博物館・美術館を観光する機会を持ってほしい。							



回	テ ー マ	授 業 の 内 容	予 習 ・ 復 習
1	はじめに 東地中海文明（1）	演習全体の導入と説明 エーゲ海文明 1	復習：今回の復習 予習：エーゲ海文明について調べる
2	前学期の省察と本学期の目標設定	前学期の省察を行い、それを基に本学期の目標を設定する	予習：前学期の省察と本学期の目標設定の下書き 復習：本学期の目標設定の清書
3	東地中海文明（2）	レポート発表・添削・修正	復習：レポートの復習 予習：配布資料を読む
4	東地中海文明（3）	レポート発表・添削・修正	復習：レポートの復習 予習：イシン・ラルサ王朝、バビロン第一王朝と古アッシリアについて調べる
5	最古の帝国の出現（1） 古代オリエント文明	交易と交戦	復習：今回の復習 予習：エラム王国、カッシート王朝、中アッシリア、ミタンニについて調べ、理解する
6	最古の帝国の出現（2） 古代オリエント文明	都市国家の連合と対立	復習：今回の復習 予習：ヒッタイト、ラムセス2世、新王国時代について調べる
7	最古の帝国の出現（3） 古代オリエント文明	古代オリエント世界の国際化と多極化	復習：今回の復習 予習：配布資料を読む
8	最古の帝国の出現（4） 古代オリエント文明	レポート発表・添削・修正	復習：レポートの復習 予習：配布資料を読む
9	最古の帝国の出現（5） 古代オリエント文明	レポート発表・添削・修正	復習：今回の復習 予習：新アッシリア帝国と旧約聖書について調べる
10	最古の帝国の出現（5） 古代オリエント文明	アッシリアの台頭とそのライバル	復習：今回の復習 予習：ティグラト・ピレセル3世、サルゴン2、エサルハドン、アッシュールバニバルについて調べる
11	最古の帝国の出現（6） 古代オリエント文明	新アッシリア帝国の再興	復習：今回の復習 予習：新バビロニア帝国、ペルシャ帝国、アレクサンドロス大王について調べる
12	最古の帝国の出現（7） 古代オリエント文明	最後の帝国について	復習：今回の復習 予習：配布資料を読む
13	最古の帝国の出現（8） 古代オリエント文明	レポート発表・添削・修正	復習：レポートの復習 予習：配布資料を読む
14	最古の帝国の出現（9） 古代オリエント文明	レポート発表・添削・修正	復習：レポートの復習 予習：これまでのレポートを読む
15	まとめ	総合復習	復習：今回の復習

授業科目(ナンバリング)	専門演習ⅡB (CF302)			担当教員	神野 周太郎		
展開方法	演習	単位数	1 単位	開講年次・時期	3 年・後期	必修・選択	必修
授業のねらい							アクティブ・ラーニングの類型
<p>専門演習ⅡAに引き続き、本演習では、「体育」「スポーツ」「運動」「身体」「教育」に関連する問題を設定し、それについての答えをみつけるための哲学的思考能力に加え「論証力」を培うことを目的とする。そのために、論文執筆や実践のための指導計画に必要な技術習得を目標とする。卒業論文の執筆にあたっては「体育」「スポーツ」およびそれに関連するテーマを個人の関心や問題意識に基づいて設定し、本演習を通じて各々に合った研究方法を選定し取り組む。本演習では、教員や学生が共に対話（議論）の中で論文のストーリーを創り上げていくことを重視する。</p>							⑤ ⑥ ⑦
ホスピタリティを構成する能力	学生の授業における到達目標				評価手段・方法	評価比率	
専門力	「体育」「スポーツ」「身体」に関することがらを人文科学的に考察できる。体育やスポーツの専門的な指導計画の立案や実践ができる。				・専門分野研究の要約内容 ・指導立案や指導実践	15% 15%	
情報収集、分析力	「体育」「スポーツ」「身体」に関するニュース、コラム、評論、書籍を集め、それらを通覧する中で個人的な問題を設定できる。				・資料収集 ・専門分野に関する問題設定	30% 20%	
コミュニケーション力	「体育」「スポーツ」「身体」についての個人的な問題意識を他者と共有し、共通理解となる答えをみつけるための議論ができる。				・他者の主張を踏まえた議論の展開	20%	
協働・課題解決力							
多様性理解力							
出席					受験要件		
合計					100%		
評価基準及び評価手段・方法の補足説明							
<ul style="list-style-type: none"> <li>議論を展開する上で、各自設定したテーマに関連する適切な先行研究や資料を選択し、それらを概観した上でレジュメ（要約、自分なりの考察）が作成されているか、その内容は論理的に展開されているかを評価する。</li> <li>運動やスポーツを模擬指導する上で、各自設定した種目、対象について適切な課題や教材を設定した上で指導案（指導計画）を作成し、指導が展開されているかを評価する。</li> <li>フィードバックについては、学生と個別に口頭でやりとりをする中で、理解度、達成度、課題を把握させる。</li> </ul>							
授業の概要							
<ul style="list-style-type: none"> <li>教育、歴史、社会、文化等を扱う人文科学の研究方法に基づいて、問題を共有するためのレジュメや発表資料、あるいは現場で必要となる指導案を作成する。適宜運動実践も交えつつ、発表内容や実践の省察を対話形式で実施する。</li> <li>本演習に通底するのは、体育やスポーツとは何か、指導とは何か、運動を経験することの意味は何か、といった問いを設定しその答えを導こうとする姿勢である。</li> <li>この授業の標準的な1コマあたりの授業外学修時間は45分とする。</li> </ul>							
教科書・参考書							
<p>教科書：『中学校学習指導要領解説 保健体育』文部科学省 2018 東山書房 『高等学校学習指導要領解説 保健体育』文部科学省 2018 東山書房</p> <p>参考書：各県教員採用試験過去問題集（保健体育）＊指定しない 教員採用試験参考書（保健体育）＊指定しない 教員採用試験ステップアップ問題集（保健体育）七賢出版 ＊該当年度の問題集</p> <p>指定図書：雑誌『月刊 体育科教育』大修館書店、雑誌『現代スポーツ評論』創文企画 『はじめての哲学的思考』 菅野一徳 2017 筑摩書房</p>							

授業外における学修及び学生に期待すること			
「体育」「スポーツ」「運動」「身体」「教育」に関わるニュース、コラム、評論、雑誌、書籍に触れる機会を増やすこと。ネット記事であればブックマークを、気になる紙媒体の資料があればコピーしてファイリングをして情報を蓄積すること。それが後に卒業論文の執筆、保健体育授業やスポーツ指導の実践力、教員採用試験の合格や望ましい就職につながる。			
回	テ ー マ	授 業 の 内 容	予 習 ・ 復 習
1	オリエンテーション 及び個別面談	・本演習の概要説明 ・個別に学業等に関する面談を実施	予習：前学期の省察 復習：個別面談内容を基に前期の取り組みを立案
2	前学期の省察と本学期の目標設定	前学期の省察を行い、それを基に本学期の目標を設定する。	予習：前学期の省察と本学期の目標設定の下書き 復習：本学期の目標設定の清書
3	「論文」という伝え方ⅡB	「問い」から「答え」にたどり着くまでの道筋	予習：『新版 論文の教室』を通読 復習：図書の「はじめに」と「おわりに」を再読
4	レジュメの作成ⅡB	主張の抽出と思考の言語化ⅡB (テーマ：自身の研究概要の作成)	予習：論文を検索し通読 復習：キーワード再設定のち再検索
5	指導案の作成ⅡB	授業/指導計画と種目の教材化ⅡB (体育とスポーツ指導の差異を踏まえた計画立案)	予習：学習指導要領を通読 復習：種目別に段階的な実技指導法を調べる
6	テーマ研究①	担当者が設定したテーマに基づいて発表 (テーマ：スポーツと教育は結びつくか)	予習：レジュメの作成 復習：発表時に受けた指摘をもとにレジュメ添削
7	テーマ研究②	担当者が設定したテーマに基づいて発表 (テーマ：出来る子と出来ない子が一緒に体育の授業を受ける場面でどう指導するか)	予習：テーマに適した資料選定、レジュメ作成 復習：キーワード再設定
8	実技指導研究①	種目を設定し担当者が模擬授業/指導を展開 (種目：ボールゲーム)	予習：種目のルール確認、担当者は指導案作成 復習：種目の特性を見直し
9	テーマ研究③	設定したテーマに基づいて担当者が発表 (テーマ：なぜスポーツの現場から非科学的指導法がなくなるのか)	予習：テーマに適した資料選定、レジュメ作成 復習：キーワード再設定
10	テーマ研究④	設定したテーマに基づいて担当者が発表 (テーマ：パフォーマンス向上のための取り組み)	予習：テーマに適した資料選定、レジュメ作成 復習：キーワード再設定
11	実技指導研究②	種目を設定し担当者が模擬授業/指導を展開 (種目：陸上競技関連)	予習：種目のルール確認、担当者は指導案作成 復習：種目の特性を見直し
12	授業内小テスト	教員採用試験過去問、スポーツ・運動指導関連問題	予習：指定された範囲を学習 復習：間違い箇所の復習
13	テーマ研究⑤	設定したテーマに基づいて担当者が発表 (テーマ：競技成績の向上は人類進化の結果か、環境や道具が変化した結果か、幼児体育の最前線)	予習：テーマに適した資料選定、レジュメ作成 復習：キーワード再設定
14	実技指導研究③	種目を設定し担当者が模擬授業/指導を展開 (テーマ：科学的知識を反映したウォームアップ)	予習：種目のルール確認、担当者は指導案作成 復習：種目の特性を見直し
15	まとめ	後期授業のまとめと長期休暇の課題	・各自設定した研究テーマや作成した指導案の省察

授業科目(ナンバリング)	専門演習ⅡB(CF302)			担当教員	高橋 憲司		
展開方法	演習	単位数	1単位	開講年次・時期	3年・後期	必修・選択	必修
授業のねらい							アクティブ・ラーニングの類型
<p>専門演習ⅡA・ⅡBでは、「コミュニケーション力の向上」「メディアリテラシーの向上」「スポーツに関する各種測定評価法の習得」を3大目標として、演習を展開します。ⅡBではⅡAに引き続き、各種ワークを通じて個人およびチームにて課題解決に取り組みます(コミュニケーション力)。また、PCもしくはスマートフォンを用いた文書作成・表計算技能を習得します(メディアリテラシー)。スポーツに関する各種測定評価法の習得に加え、研究倫理に関する証明書の取得と研究計画書を作成できるようにします。</p>							① ② ⑤ ⑦ ⑩ ⑫
ホスピタリティを構成する能力	学生の授業における到達目標				評価手段・方法	評価比率	
専門力	<ul style="list-style-type: none"> <li>アンケート調査を実施し、結果をまとめることができる</li> <li>スポーツに関する各種測定方法を適切に実施できる</li> </ul>				<ul style="list-style-type: none"> <li>課題レポート</li> <li>測定実技試験</li> </ul>	10% 10%	
情報収集、分析力	<ul style="list-style-type: none"> <li>PCもしくはスマートフォンを学習・研究・データ収集に効果的に活用できる。</li> <li>必要な文献および測定データを適切に収集できる</li> </ul>				<ul style="list-style-type: none"> <li>作業課題</li> <li>研究レポート</li> </ul>	10% 30%	
コミュニケーション力	<ul style="list-style-type: none"> <li>ゼミ生同士で円滑にコミュニケーションがとれる。</li> <li>他のゼミ生に対して、適切な指摘ができる。</li> </ul>				<ul style="list-style-type: none"> <li>ワークへの取り組み態度とワークによる成果</li> </ul>	20%	
協働・課題解決力	<ul style="list-style-type: none"> <li>各種ワークに対して、共同して全力で取り組むことができる</li> </ul>				<ul style="list-style-type: none"> <li>ワークへの取り組み態度とワークによる成果</li> </ul>	10%	
多様性理解力	<ul style="list-style-type: none"> <li>自分自身の長を理解した上で、他の学生の個性や多様性を尊重し、周囲に不快感を与えない配慮ができる。</li> </ul>				<ul style="list-style-type: none"> <li>授業態度</li> </ul>	10%	
出席					受験要件		
合計					100%		
評価基準及び評価手段・方法の補足説明							
<p>●ワークへの取り組みと成果(30%)：3～12回の全10回の結果で評価(各回3点満点：態度評価0～2点、成果0～1点)、各授業の後半にフィードバック。●作業課題(10%)：メディアリテラシー課題を11段階で評価(0～10点)、13回の授業時にフィードバック。●測定実技試験(10%)：第13回に実施、評価、フィードバックを行う。●課題レポート(10%)：アンケート調査結果について、11段階で評価(0～10点)、第10回時にフィードバック●授業態度(10%)：10点満点から減点法とし、不快と感じさせるような行為に対して、その都度注意して、減点理由を説明する。●研究レポート(30%)：授業での研究活動の内容を総合評価し、成績入力日までに個別にフィードバックする。</p>							
授業の概要							
<p>本授業では、各種ワークを通じて、コミュニケーションの向上のための活動を実施する。また、PC・スマートフォンを使用しメディアリテラシーを高め、日常生活・学生生活・研究活動が円滑に行えるようにする。さらに、スポーツに関する専門的知識を高め、研究を行うための基礎力を習得します。尚、各スポーツ体験を行う際、活動に関わる実費負担が生じることがあります(見学も可)。この授業の標準的な1コマあたりの授業外学修時間は、60分とする。</p>							
教科書・参考書							
<p>教科書：「健康・スポーツ科学のための動作と体力の測定法-ここが知りたかった測定と評価のコツ-」監修出村 慎一。 参考書：「健康・スポーツ科学のためのExcelによる統計解析入門」佐藤 進 他(杏林書院) ISBN-13: 978-4764411081 指定図書：教科書と同じ</p>							
授業外における学修及び学生に期待すること							
<p><b>授業外における学習</b>：様々なスポーツについて、興味関心をもって観察し、各スポーツの特性や可能性を考える習慣ができるように、授業外でスポーツ現場やテレビ等の様々なメディアを活用して情報収集を行ってほしい。 <b>学生に期待すること</b>：「挨拶・礼儀」「時間厳守」「整理整頓」の基礎的社会的マナーを守り、主体的・積極的にゼミの活</p>							

動に取り組んでほしい。授業を欠席する場合は、事前に連絡をするようにしてほしい。スポーツによる外傷・障害のある場合は、初期評価・相談が可能なので、気軽に相談をしてほしい。

回	テ ー マ	授 業 の 内 容	予 習 ・ 復 習
1	オリエンテーション	<ul style="list-style-type: none"> <li>・演習授業の進め方の確認</li> <li>・夏季休暇中の活動報告と今季の目標設定</li> </ul>	予習：シラバスを熟読し理解する 復習：受講規則の確認
2	スポーツに関する疑問	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コミュニケーションワーク（情報交換）</li> <li>・メディアリテラシー（ワード活用）</li> <li>・スポーツに対して疑問に思うこと（討論）</li> </ul>	予習：これまでの経験やニュースをもとに疑問に思うことを整理 復習：疑問から課題を設定する
3	文献検索（書籍）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コミュニケーションワーク（ウォームアップ）</li> <li>・メディアリテラシー（ワードタイピング）</li> <li>・書籍の文献検索</li> </ul>	予習：興味のあるスポーツ関連図書を図書館より5冊以上借りる 復習：図書1冊の要約作成（500字）
4	文献検索（論文）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コミュニケーションワーク（簡易ゲーム）</li> <li>・メディアリテラシー（アプリ活用）</li> <li>・学術論文の文献検索</li> </ul>	予習：研究室内にある学術雑誌を1冊選択し、簡単に目を通す 復習：論文1編の要約作成（500字）
5	ターゲット型球技スポーツ体験	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コミュニケーションワーク（準備体操）</li> <li>・ターゲット型球技（ポッチャ・ゴルフ等）の体験</li> </ul>	予習：怪我予防のため、30分以上の運動を週2日間以上行う 復習：ターゲット型球技について、発展的な活用法を考える
6	研究倫理と利益相反	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コミュニケーションワーク（手遊び）</li> <li>・メディアリテラシー（アンケート作成①）</li> <li>・研究倫理・利益相反の説明</li> </ul>	予習：研究倫理についての調査 復習：日本学術振興会 研究倫理 eラーニングコースへの登録
7	eラーニング（研究倫理①）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コミュニケーションワーク（クラフト作業）</li> <li>・メディアリテラシー（アンケート作成②）</li> <li>・eラーニング（研究倫理）①</li> </ul>	予習：eラーニングのページにて、60分以上学習する。 復習：学習内容を整理し、確認テストに挑戦する
8	eラーニング（研究倫理②）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コミュニケーションワーク（情報共有）</li> <li>・メディアリテラシー（アンケート実施）</li> <li>・eラーニング（研究倫理）②</li> </ul>	予習：eラーニングのページにて、60分以上学習する。 復習：学習内容を整理し、確認テストに挑戦する
9	eラーニング（研究倫理③）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コミュニケーションワーク（ディスカッション）</li> <li>・メディアリテラシー（アンケート集計）</li> <li>・eラーニング（研究倫理）③</li> </ul>	予習：eラーニングのページにて、60分以上学習する。 復習：最終テストに合格する
10	eスポーツ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コミュニケーションワーク（共通点探し）</li> <li>・メディアリテラシー（表の作成）</li> <li>・eスポーツ</li> </ul> ※課題レポート（締め切り：12回終了時）	予習：世界の有名eスポーツを調査 復習：体験版のeスポーツを60分以上体験する
11	eスポーツ体験	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コミュニケーションワーク（数値ゲーム）</li> <li>・メディアリテラシー（図の作成）</li> <li>・メディアリテラシー（測定用紙作成）</li> </ul>	予習：測定手順・教示をマスターする 復習：専用の測定用紙を作成する
12	測定練習	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コミュニケーションワーク（ミーティング）</li> <li>・メディアリテラシー（アプリ探索）</li> <li>・選択した測定評価法の習熟とデータ入力</li> </ul>	予習：測定方法の練習をする 復習：データ入力の独自フォーマットを完成させる
13	測定実技試験	<ul style="list-style-type: none"> <li>・測定実技試験</li> <li>・試験の振り返り（フィードバック）</li> </ul> ※作業課題のフィードバック	予習：選択した測定方法について、熟練するまで反復練習する 復習：実技試験・フィードバックを踏まえ、改善点を整理
14	研究計画書（簡易版）の作成と倫理審査申請書の作成①	※研究レポート課題：研究計画書&倫理審査申請書（締め切り：15回終了の1週間後） <ul style="list-style-type: none"> <li>・研究計画書・倫理審査申請書の作成方法</li> </ul>	予習：研究計画書作成の手引きを確認する 復習：レポート作成に取り組む
15	研究計画書（簡易版）の作成と倫理審査申請書の作成②	<ul style="list-style-type: none"> <li>・研究レポートの作成</li> </ul>	予習：研究レポートの作成 復習：研究レポートを完成させる

授業科目(ナンバリング)	<b>専門演習ⅡB (CF302)</b>			担当教員	陳 慶光		
展開方法	演習	単位数	1 単位	開講年次・時期	3 年・後期	必修・選択	必修
授業のねらい							アクティブ・ラーニングの類型
本演習では、ますます発展する市民マラソン大会を通じて、スポーツツーリズムによる地域活性化を広い視点から学ぶ。今後のスポーツイベント運営・企画を担う人材に成長できるよう、専門演習Ⅰと異なる視点からフィールド調査とレポート執筆を中心に進める。そうすることで地域の魅力を再発見し、引き出し、ひいては地域活性化に結実させる。							②⑥
ホスピタリティを構成する能力	学生の授業における到達目標				評価手段・方法	評価比率	
専門力	スポーツツーリズムを全般的に理解することができる。				演習への参加度	30%	
情報収集、分析力	フィールド調査で得られたデータを科学的に分析できる。				研究レポートとプレゼンテーション	50%	
コミュニケーション力	課題に積極的に取り組み、調査結果をレポートとしてまとめることができる。プレゼン資料を作成し、わかりやすく発表することができる。				研究レポートとプレゼンテーション	20%	
協働・課題解決力							
多様性理解力							
出 席					受験要件		
合 計					100%		
評価基準及び評価手段・方法の補足説明							
<ul style="list-style-type: none"> <li>・研究レポートとプレゼンテーション：スポーツツーリズムとフィールド調査に関する様々な概念の趣旨を身につけているかについて評価する。</li> <li>・演習への参加度：議論やグループワークへの参加度合を評価する。 フィールド調査とレポート執筆の各段階におけるフィードバックや助言は適宜個人指導を通じて行う。</li> </ul>							
授業の概要							
<p>本演習では、調査研究とレポート執筆を通して、コミュニケーション力と情報収集、分析力および課題解決力を身に付ける。スポーツツーリズムの現場でのフィールド調査を通じて、スポーツイベントに関する施策における課題、知識を徹底的に学びます。前期に行った予備調査の結果を糧に、後期の本調査を実施する。なお、各調査地域への旅費は各自で実費を負担する。この授業の標準的な1コマあたりの授業外学修時間は45分とする。</p>							
教科書・参考書							
<p>教科書：特に指定しない。 参考書：適宜紹介する。 指定図書：『スポーツツーリズム・ハンドブック』、日本スポーツツーリズム推進機構編、学芸出版社</p>							
授業外における学修及び学生に期待すること							
<p>膨大な知識と経験を要する、「スポーツツーリズム」と「フィールド調査」について総合的に学びます。そのため、毎回の課題が数多く設定されます。継続的かつ主体的な学習態度が求められます。 本演習を選択する学生は、スポーツツーリズムを履修することが望ましい。さらに、専門演習ⅠからⅢにかけて、マラソン大会のランナー、ボランティア、観客として積極的に参加を推奨します。</p>							

回	テ ー マ	授 業 の 内 容	予 習 ・ 復 習
1	オリエンテーション	専門演習ⅡAの結果を踏まえ、各自の方向性と進め方を確認する。	予習：シラバスを読む 復習：目標設定
2	フィールド調査の準備 (1)	フィールド調査の対象になる長崎平和マラソン（暫定）について、相互に討論して、各自調査したいテーマを決定する。	予習：調査対象について調べておく 復習：目標設定と修正
3	フィールド調査の準備 (2)	問題提起、調査計画を立てる。	予習：文献を読む 復習：目標設定と修正
4	フィールド調査の準備 (3)	フィールド調査におけるデータ収集方法（アンケート）について学ぶ。	予習：文献を読む 復習：調査票の作成
5	フィールド調査の準備 (4)	フィールド調査におけるデータ収集方法（参与観察）について学ぶ。	予習：文献を読む 復習：調査票の作成
6	フィールド調査の準備 (5)	フィールド調査におけるデータ収集方法（インタビュー）について学ぶ。	予習：文献を読む 復習：調査票の作成
7	フィールド調査の準備 (6)	フィールド調査におけるデータ分析方法（量的方法）について学ぶ。	予習：文献を読む 復習：調査票の作成
8	フィールド調査の準備 (7)	フィールド調査におけるデータ分析方法（質的方法）について学ぶ。	予習：文献を読む 復習：調査票の作成
9	フィールド調査の準備 (8)	校内でアンケート調査、参与観察、インタビュー調査を予行練習する。長崎平和マラソン開催期間中にフィールド調査を行う（暫定）。	予習：調査計画を立てる 復習：調査票の精査
10	研究レポートの作成 (1)	フィールド調査を振り返り、気付いた点や感想を話し合い、レポート作成の方向性を検討する。	予習：調査結果を初歩的にまとめておく 復習：
11	研究レポートの作成 (2)	研究レポートを作成、修正する。	レポート執筆
12	研究レポートの作成 (3)	研究レポートを作成、修正する。	レポート執筆
13	研究レポートの作成 (4)	研究レポートを作成、修正する。	レポート執筆
14	研究結果の発表	作成したレポートをもとに、プレゼンテーションを行う。	予習：口頭発表の準備 復習：口頭発表の反省
15	まとめと展望	各自が本学期的の調査を振り返り、来年度に向けて検討する。	本学期的の成果の確認

授業科目(ナンバリング)	専門演習 IA (CF302)			担当教員	東出 朋		
展開方法	演習	単位数	1 単位	開講年次・時期	3 年・後期	必修・選択	必修
授業のねらい							アクティブ・ラーニングの類型
この授業は日本語教育の「教育」の側面について学ぶ。具体的な授業の進め方、教案の書き方、教材についてなど、日本語教育の技術を学び、日本語教育の現場を多様な側面からとらえることができるようになる。							③④⑤⑥
ホスピタリティを構成する能力	学生の授業における到達目標				評価手段・方法	評価比率	
専門力	日本語教育の技術に関する知識を身につける。				レポート	30%	
情報収集、分析力	新聞や雑誌から日本語教育に関する必要な情報を収集し、分かりやすく発表することができる。				発表	50%	
コミュニケーション力	発表の要点を正しく理解し、適切な質問をしたり建設的なコメントを与えたりすることができる。				ディスカッション リフレクションカード	20%	
協働・課題解決力							
多様性理解力							
出席					受験要件		
合計					100%		
評価基準及び評価手段・方法の補足説明							
演習内での発表（関連する情報の収集・整理・分析も含む）を主に評価する（50%）。発表後にはクラス全体でディスカッションを行い、その内容をリフレクションカードとして提出する（20%）。発表とリフレクションカードについては次の授業で教師がコメントする。学期末には、学期中に扱ったテーマの中から1つ選び、レポートを提出する（30%）。							
授業の概要							
本演習は、日本語教育の「教育」の側面を扱う。文法など言語の構造に関する内容は扱わない。具体的な授業の進め方、教案の書き方、教材についてなど、日本語教育の技術を学ぶ。授業では、教科書に沿って、発表とディスカッション、グループ活動を中心に据える。この授業の標準的な1コマあたりの授業外学修時間は、45分とする。							
教科書・参考書							
教科書：森篤嗣（編）（2019）『超基礎・日本語教育』くろしお出版 参考書：特になし 指定図書：ブレイディみかこ（2019）『ぼくはイエローでホワイトで、ちょっとブルー』新潮社							
授業外における学修及び学生に期待すること							
日本語学校や大学での日本語教育以外に、広く「日本語教育」に関心を持ってほしい。2019年6月には「日本語教育推進法」が可決され、これからますます日本語教育の重要性が議論されるだろう。新聞やテレビなどで日本語教育に関するニュースを積極的にチェックし、また身近な日本語教育現場について考え、日本語教育に主体的に関わることを期待する。							



回	テ ー マ	授 業 の 内 容	予 習 ・ 復 習
1	オリエンテーション	進め方の確認, アイスブレイク, レディネス調査	事前にシラバスをよく読み, 学習項目を確認する.
2	5章 コースをデザインしよう	コーススデザイン, 機関, 目標	予習) 予習シートを記入 復習) pp. 48-57 を読む
3	5章 コースをデザインしよう	目標と評価方法, 教材	予習) 課題 4 を記入 復習) 課題 5・6 を記入
4	7章 学習レベルと教材・教具	教材と教具	予習) 課題 1 を記入 復習) pp. 59-65 を読む
5	7章 学習レベルと教材・教具	初級総合教科書, 教材分析	予習) 課題 3 を記入 復習) 課題 4 を記入
6	10章 教室でのやりとりと学習者へのフィードバック	教室, 教師, 学習者, やりとり	予習) 課題 1 を記入 復習) pp. 96-103 を読む
7	10章 教室でのやりとりと学習者へのフィードバック	インターアクション, フィードバック	予習) 課題 3 を記入 復習) pp. 104 を読む
8	11章 授業の流れを考えてみよう	教案の書き方, 授業の流れ	予習) 課題 1 を記入 復習) pp. 105-113 を読む
9	11章 授業の流れを考えてみよう	文型ベース, タスクベース	予習) 課題 2 を記入 復習) 課題 3 を記入
10	12章 日本語授業の見学	見学①(日本語学校やボランティア教室の授業見学)	予習) 課題 1・2 を記入 復習) リフレクションカードの記入
11	12章 日本語授業の見学	見学②(日本語学校やボランティア教室の授業見学)	予習) pp. 115-119 を読む 復習) リフレクションカードの記入
12	13章 模擬授業の準備	模擬授業の準備, グループ活動	予習) pp. 121-127 を読む 復習) 教案作成
13	13章 模擬授業の準備	模擬授業の準備, グループ活動	予習) 教案作成 復習) 教案修正
14	8章 学習者の目から日本語を見てみよう	日本語教育文法	予習) 課題 1 を記入 復習) pp. 78-85 を読む
15	まとめ	後期のまとめ, ディスカッション	予習) レポートのトピックを考えてくる

授業科目(ナンバリング)	専門演習ⅡB (CF302)			担当教員	Brendan Van Deusen		
展開方法	演習	単位数	1 単位	開講年次・時期	3 年・後期	必修・選択	必修
授業のねらい							アクティブ ラーニング の類型
Building on the previous semester, this course aims to introduce students to primary research and data collection. Student will complete a simple research project that involves creating a simple questionnaire for the purposes of investigating a research topic. Ethical collection of data will be introduced. Following this, students will learn the steps necessary for reporting the results.							⑦ ⑪ ⑫
ホスピタリティを構成する能力	学生の授業における到達目標			評価手段・方法		評価比率	
専門力	Students will write a correctly formatted research paper Students will write a short research paper based on a topic provided to them			Report Report		10% 30%	
情報収集、分析力	Students will be able to collect and organize primary data in an ethical manner			Assignments		50%	
コミュニケーション力	Students will be able to present ideas about a research topic in a way that informs and engages their audience			In-class engagement		10%	
協働・課題解決力						%	
多様性理解力						%	
出席				受験要件			
合計				100%			
評価基準及び評価手段・方法の補足説明							
In-class engagement (Group discussions, supporting other students with helpful ideas): 10% Assignments (Complete weekly assignments and preparation work for projects): 50% Report (Complete a short research paper which uses primary data to address a given topic) 40% * All feedback is provided via rubrics and comments in the online gradebook ( <a href="https://niu.9learn.net/">https://niu.9learn.net/</a> and Google Classroom)							
授業の概要							
In the first few classes, students discuss how to find information about a topic and present their findings. From this, they move on to preparing for a research paper. Working in stages, students research a topic in order to answer a specific research question. Students will discuss and present their ideas as well as write. この授業の標準的な1コマあたりの授業外学修時間は、45分とする。							
教科書・参考書							
教科書：None 参考書：J.W. クレスウェル、「人間科学のための混合研究法」 指定図書：Extensive reading books from the library							
授業外における学修及び学生に期待すること							
1. This course is conducted in English. 2. Students are required to have a tablet or notebook computer connected to NIU WIFI. 3. Student expectations: Students will attend <u>all lessons</u> (unless sick or on a school trip). Students must contact the teacher <u>before</u> missing a class. If a student misses a class, he or she will catch-up on the lesson and homework. Students will complete projects and homework on time. Students will ask for help if necessary. This syllabus is subject to change.							

回	テ ー マ	授 業 の 内 容	予 習 ・ 復 習
1	Introduction	<ul style="list-style-type: none"> <li>Introduce the course and review the syllabus</li> </ul>	Read syllabus in advance
2	Seminar business	<ul style="list-style-type: none"> <li><i>Rubric Hyoka</i>, 100 book policy (what &amp; how?), Q-learn, anti-harassment, CLHSC, semester schedule, attendance system, NIU email, standard rubric for academic essays</li> </ul>	Complete the rubric and input any books on Manaba
3	Personal goal setting	<ul style="list-style-type: none"> <li>Conference with seminar teacher about personal goals for the semester</li> <li>Check <i>Rubric Hyoka</i> and 100 book status</li> </ul>	Students meet with teacher about rubric
4	Methods of data collection	<ul style="list-style-type: none"> <li>Why collect data?</li> <li>How to collect data?</li> </ul>	Students make a questionnaire to collect data about a topic
5	Research ethics	<ul style="list-style-type: none"> <li>What are research ethics?</li> <li>How to conduct research ethically?</li> <li>Research ethics paperwork</li> </ul>	Revise questionnaire
6	Collecting data	<ul style="list-style-type: none"> <li>Students collect data from each other and discuss preliminary results</li> </ul>	Summarize raw data into charts and graphs
7	Reporting data collection methods	<ul style="list-style-type: none"> <li>Why report the data collection method?</li> <li>What should be reported?</li> <li>Useful expressions for reporting</li> </ul>	Write a simple report of the collection methodology
8	Analyzing data results	<ul style="list-style-type: none"> <li>Present summary of data collection</li> <li>How to report such data</li> </ul>	Write a simple summary of data results
9	Discussing data results	<ul style="list-style-type: none"> <li>Discussion about what the results mean and how it answers the research question</li> </ul>	Write a simple discussion of the results
10	Writing workshop	<ul style="list-style-type: none"> <li>Putting everything together to answer the main research question</li> <li>Clarify students' questions about primary research</li> </ul>	Revise writing based on feedback
11	Draft paper first half	<ul style="list-style-type: none"> <li>Workshop on the first half of students' research paper</li> </ul>	Write the first half of the paper
12	Draft paper second half	<ul style="list-style-type: none"> <li>Workshop on the second half of students' research paper</li> </ul>	Improve first half. Write the second half of the paper.
13	Final paper formatting	<ul style="list-style-type: none"> <li>Best practices for formatting academic papers</li> <li>Check 100 Book status</li> </ul>	Improve the second half. Adjust formatting.
14	Mini-presentation	<ul style="list-style-type: none"> <li>Students present and discuss the topic of their papers</li> </ul>	Give presentation about topic and discuss.
15	Wrap-up	<ul style="list-style-type: none"> <li>Students receive feedback on their final papers</li> </ul>	Receive feedback about paper. Make final changes.

授業科目(ナンバリング)	専門演習ⅡB(CF302)			担当教員	元嶋 菜美香		
展開方法	演習	単位数	1単位	開講年次・時期	3年・後期	必修・選択	必修
授業のねらい							アクティブラーニングの類型
スポーツ心理学に関する文献の輪読を通して、運動学習・臨床心理・健康心理の基礎知識を理解することを目的とする。また、これらの基礎的知識を専門的に実施している競技に応用して考えることができるようにする。さらに、発表されるそれぞれの研究論文の内容を理解し、研究課題等についての討議を通して卒業論文作成に繋がるよう各自の研究課題を具体化する。							①⑤⑩
ホスピタリティを構成する能力	学生の授業における到達目標				評価手段・方法	評価比率	
専門力	研究計画を立て、目的に対応した調査・実験方法を選択することができる。 研究テーマに関する専門用語を用いて、研究計画書を作成することができる。				研究計画書	30%	
情報収集、分析力	研究テーマに関する参考文献を収集し、その内容について分析することができる。				プレゼンテーション資料	50%	
コミュニケーション力	スポーツ場面における心理的要因や研究方法等について自身の意見を発表し、ディスカッションに積極的に参加することができる。				プレゼンテーション	20%	
協働・課題解決力							
多様性理解力							
出席					受験要件		
合計					100%		
評価基準及び評価手段・方法の補足説明							
<p>プレゼンテーション資料：プレゼンテーションを行うにあたり、担当箇所に記載されている基礎知識を理解し要約できているかを評価する。</p> <p>プレゼンテーション：担当箇所に記載されている知識の把握のみならず、周辺領域に関する知識を把握した上で、理論的に説明できているかを評価する。</p> <p>プレゼンテーションおよびプレゼンテーション資料は、授業内で随時フィードバックを行う。</p>							
授業の概要							
<p>前半は、卒論に関連するスポーツ心理学に関する文献を選択し、精読・要約したプレゼンテーション資料を作成する。作成した資料をもとにプレゼンテーションを行い、ゼミ内でディスカッションを行い、卒業論文のテーマを決める。課題の提出およびレポートの共有は、ポートフォリオを通じて行う。</p> <p>後半は、最終的には研究方法を決定したうえで、研究計画書および題目を作成する。</p> <p>この授業の標準的な1コマあたりの授業外学修時間は、45分とする。</p>							
教科書・参考書							
<p>教科書：中込四郎他『よくわかるスポーツ心理学』ミネルヴァ書房，2012</p> <p>参考書：中込四郎『メンタルトレーニング・ワークブック』道和書院，1997</p> <p>指定図書：中込四郎他『よくわかるスポーツ心理学』ミネルヴァ書房，2012</p>							
授業外における学修及び学生に期待すること							
<p>スポーツ心理学に興味を持ち、普段から自分の専門種目や興味関心のある競技種目、日常生活における心理的要因について知識を深めること。また、時間厳守や報告・連絡・相談など、大学生としてふさわしい行動をするように努めること。グループワークが中心となるので、他者の心を思いやり協調性をもった行動をとること。</p> <p>※本演習を選択するものは、次のコースを履修することが望ましい：スポーツツーリズムコース</p>							

回	テ ー マ	授 業 の 内 容	予 習・復 習
1	オリエンテーション (1)	自己紹介、ゼミの進め方	シラバス及び参考書の確認
2	オリエンテーション (2)	卒業論文のテーマの検討、プレゼンテーション担当者の決定、レジュメの作成方法	卒業論文のテーマについて考える
3	前学期の省察と本学期の目標設定	ゼミ担当教員と相談しながら、前学期の省察を行い、それを基に本学期の目標設定について確定する	予習：前学期の省察と本学期の目標設定の下書き 復習：本学期の目標設定の清書
4	プレゼンテーション (1)	テーマに関する参考文献のプレゼンテーションおよびディスカッション	各自の参考文献の精読・要約・レジュメ作成 (1)
5	プレゼンテーション (2)	テーマに関する参考文献のプレゼンテーションおよびディスカッション	各自の参考文献の精読・要約・レジュメ作成 (2)
6	プレゼンテーション (3)	テーマに関する参考文献のプレゼンテーションおよびディスカッション	各自の参考文献の精読・要約・レジュメ作成 (3)
7	キッズスポーツ調査	キッズスポーツに参加し、調査を行う。	調査内容およびデータ入力方法を確認
8	キッズスポーツ計画	キッズスポーツの実施計画を立て、役割分担を行う。	キッズスポーツのメニューを考える
9	キッズスポーツの実施	キッズスポーツを実施し、課題点を挙げる。	キッズスポーツのメニューを確認する
10	実験・調査計画 (1)	調査・実験計画書の作成方法	卒業論文の調査・研究テーマを検討する
11	実験・調査計画 (2)	卒業論文に関する調査・実験を計画する	卒業論文の調査・研究を計画する (1)
12	実験・調査計画 (3)	卒業論文に関する調査・実験を計画する	卒業論文の調査・研究を計画する (2)
13	実験・調査計画 (4)	卒業論文に関する調査・実験を計画する	卒業論文の調査・研究を修正する (1)
14	実験・調査計画 (5)	卒業論文に関する調査・実験を計画する	卒業論文の調査・研究を修正する (2)
15	卒業研究の作成	卒業研究の序論、題目を作成する	卒業論文の題目作成

授業科目(ナンバリング)	専門演習ⅡB (CF302)			担当教員	森尾真之		
展開方法	演習	単位数	1単位	開講年次・時期	3年・後期	必修・選択	必修
授業のねらい							アクティブ ラーニング の類型
地域課題の理解を踏まえ、既存の観光素材の組み合わせによる新しい価値づくりの方法を研究します。日本型 DMO における事例など地域観光発信における様々なモデルを研究し、対象地域にあった組織作りや手法を採択し、魅力の再定義による観光資源の発信、連動したプロモーションなど具体的な取り組みを行います。同時に関連法令やコンプライアンスの順守、関係者間の信頼醸成など、企画立案や運営実行を行う上でのさまざまな配慮・注意点についても理解を深めます。							②⑥ ⑦⑫
ホスピタリティを構成する能力	学生の授業における到達目標				評価手段・方法	評価比率	
専門力	地域課題解決への取り組みと参加者のメリットが明確に示された企画案が作成できる。				レポート作成	30%	
情報収集、分析力	域内の旅行業・観光業に関する最新の情報に触れ、同様の事例情報の収集や、関連する地域のテーマと比較して検討することができる。				授業への積極的な姿勢	50%	
コミュニケーション力	<ul style="list-style-type: none"> <li>論点が整理され、簡潔でわかりやすい表現ができる。</li> <li>課題に積極的に取り組み、自分の考えも説明することができる。</li> </ul>				プレゼンテーション	20%	
協働・課題解決力							
多様性理解力							
出 席					受験要件		
合 計					100%		
評価基準及び評価手段・方法の補足説明							
<p>「授業への積極的な姿勢」(50%)は、出席に加え討議をまとめるなどのリーダーシップやグループ内での率先垂範、メンバー支援などを総合的に判断します。</p> <p>「レポート」(30%)は内容の論理性・独自性を重視して判断します。</p> <p>「プレゼンテーション」は、様式や見やすさに加え、内容、発表態度などをもとに評価します。</p> <p>フィードバックは、レポート返却時及びポートフォリオを通して行います。</p>							
授業の概要							
グループ(または個人)で選択したテーマに沿って、地域課題解決、観光振興に関わる事業計画を策定し、発表を行います。計画に際しては、より高い実現性とリアリティを最大限に追求するため、外部の団体・法人、旅行・観光業などとの連携を想定して、具体的な計画案を策定します。ゼミ内での発表にとどまらず、想定されるステークホルダー、関係者へのプレゼンテーションも行うため、この授業の標準的な1コマあたりの授業外学修時間45分とします。							
教科書・参考書							
教科書/参考書/指定図書：特に指定しない。必要なレジュメなどは授業時に配布。							
授業外における学修及び学生に期待すること							
本演習では現実的に実施可能な企画の手法の研究と実践を目標と、多くの学外機関の方との連携や協力が不可欠です。社会に役に立つ企画を実現させるという高い目標意識をもち、学内外での多くの活動、自主的な調査など授業以外での活動へ積極的に参加する学生の受講を期待します。自身のポートフォリオにおける大きなフットプリントとなるよう、自分の能力を最大限に表現し、自身の成長につなげられるアウトプットになることを期待します。							

回	テ ー マ	授 業 の 内 容	予 習 ・ 復 習
1	オリエンテーション	メンバー自己紹介 演習概略および目標設定	(予習) 事前にシラバス及び演習概略に目を通してこること
2	個人目標の設定	個別面談による目標設定	(予習) 自身の興味・関心をまとめてくる。
3	企画の前提に関する整理	地域課題・旅行市場、情報発信などの基礎知識に関するおさらい。	(予習) これまでの自分の学びを整理してこる。
4	グループ編成と研究テーマの検討	事業化企画コンセプトについての概要(課題設定・狙い)を発表・共有する。	(予習) 事業家テーマの論点を明確にする。 (復習) 企画の方向性を絞り込む。
5	グループワーク(事業化) ①	事業計画の素案作成・方向性の検討 グループ内の役割を決め、目標とスケジュールを設定する。	(予習) 企画概要を図式化する。
6	グループワーク(事業化) ②	実地調査・情報収集	(予習) 調査報告と企画見直しについてレポート
7	グループワーク(事業化) ③	企画案作成作業(調査による企画内容の修正確認)	(予習) 各パートの原稿を収集しておく。
8	グループワーク(事業化) ④	企画案作成作業(プレゼンテーション作成)	(予習) 画像やコンテンツの整理。
9	グループワーク(事業化) ⑤	事業計画プレゼンテーションと質疑	(予習) 発表準備 (復習) 質疑・コメントの計画反映
10	グループワーク (報告書作成) ①	報告書案の立案 (構成、各パートごとのテーマ設定)	(予習) 各パートの原稿を収集しておく。
11	グループワーク (報告書作成) ②	報告書作成検討討議(ステークホルダー、関係者の視点から考える)	(予習) 画像やコンテンツの整理。
12	グループワーク (報告書作成) ③	報告書作成検討会議(商品事業化作業を振り返って今後の研究に役立てるためのポイントや研究の方向性についての意見交換)	(復習) テーマの確定
13	グループワーク (報告書作成) ④	各パートの原稿提出	(予習) ページ割調整
14	グループワーク (報告書作成) ⑤	各担当ページの校正	(予習) 自身の反省点をまとめておく
15	まとめ	意見交換と演習全体のふりかえり。	(予習) 今後の自分の目標について考えておく。

授業科目(ナンバリング)	専門演習ⅡB (CF302)			担当教員	中島 金太郎		
展開方法	演習	単位数	1単位	開講年次・時期	3年・後期	必修・選択	必修
授業のねらい							アクティブ・ラーニングの類型
<p>テーマ：地域文化資源の研究と展示</p> <p>専門演習ⅡAで実施した地域文化資源に関するフィールドワークを再検討し、その成果をまとめて発表することができる。特に博物館の4大機能の中でも「研究」「展示」機能について学び、収集・記録した資料を研究して展示する活動を行うことで、学芸員に必要な実践的能力を養うことができる。</p>							⑤⑥⑪
ホスピタリティを構成する能力	学生の授業における到達目標				評価手段・方法	評価比率	
専門力	博物館や地域文化資源に関心を持つことができ、主に資料の研究・展示の方法を身に付けることができる。				展示製作への参加態度	30%	
情報収集、分析力	地域文化資源の特性を見出す洞察力や、問題点を把握する分析力及び思考力を取得することができる。				研究成果レポート	40%	
コミュニケーション力	展示作業およびグループワークの実施により、集団内でのコミュニケーション能力や発言力、企画立案力を養うことができる。				グループワークへの取り組み	20%	
協働・課題解決力							
多様性理解力	ゼミ生の研究発表を聞き、内容を理解することで多様性を理解すると共に、それを評価できる能力を養う。				研究発表	10%	
出席					受験要件		
合計					100%		
評価基準及び評価手段・方法の補足説明							
<ul style="list-style-type: none"> <li>・演習は展示製作を中心とし、それに至るまでのグループワーク、施工作業への取り組み・態度を総合的に判断する。</li> <li>・一連の調査・展示・学習で得られた研究成果をレポートにまとめ、その提出を必須とする。</li> </ul>							
授業の概要							
<p>演習の方法は以下の手順で行う。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 博物館における研究および展示の目的・意義を確認</li> <li>2. 展示のテーマ・目的・場所・日程・方法についてグループワーク</li> <li>3. テーマに関する文献資料の収集と分析</li> <li>4. 展示の実施（専門演習ⅡAで行ったフィールドワークの成果を基に、大学祭での実施を目標に展示製作を行う。）</li> <li>5. 展示製作の中で興味を持った分野について研究を行い、研究レポートを執筆</li> <li>6. 研究レポートを基に研究発表を行い、ゼミ内で相互評価を実施</li> <li>7. 研究成果レポートを纏める過程で、卒業研究のテーマについても考察</li> </ol> <p>この授業の標準的な1コマあたりの授業外学修時間は、45分とする。</p>							
教科書・参考書							
<p>教科書：使用しない</p> <p>参考書：授業中に指示する</p> <p>指定図書：デビッド・ディーン『美術館・博物館の展示 理論から実践まで』丸善出版</p>							
授業外における学修及び学生に期待すること							
<p>この演習は、博物館学芸員としての基礎である展示能力および研究能力を習得するものであり、展示作業を通じて実務能力を習得するだけでなく、地域文化資源に興味を持つ好奇心や、自分自身で深めていく検討能力も養ってほしい。また、展示物の製作にはセンスが求められることもあるため、博物館に限らず様々な展示、ポスター、チラシなどを見てセンスを磨いてほしい。</p> <p>※本演習を選択する学生は、博物館学芸員課程の履修者であることが望ましい。</p>							



回	テ ー マ	授 業 の 内 容	予 習 ・ 復 習
1	演習内容の確認	ガイダンス（演習内容の把握）を実施。 あわせて展示製作（パネル、題箋などを含む）の方法について講義する。	予習：シラバスを読む 復習：展示製作の方法を確認
2	前学期の省察と本学期的目標設定	前学期の学習成果を省察し、本学期的個人目標設定のための面談を実施。	予習：前学期の省察と本学期的目標設定の下書き 復習：本学期的目標を設定し、用紙にまとめる
3	展示内容の選定	ゼミ内でグループワークを行い、展示のテーマ・内容・展示方法を選定する。 併せて、ポスター等広報についても検討する。	予習：展示テーマの考案 復習：広報物のデザイン等を考案
4	展示製作①	展示物（パネル、題箋類）を制作する。 あわせて、広報物も制作する。	予習：展示内容を確認 復習：展示内容を再検討
5	展示製作②	展示物（パネル、題箋類）を完成する。	予習：展示内容を再検討 復習：展示施工の方法について再確認
6	展示準備・施工	大学祭期間中に展示を公開するため、具体的な施工の準備を行う。 また、大学祭期間には、展示の運営を行う。	予習：展示準備 復習：展示作業の自己評価・自己分析
7	展示の反省	ゼミ内でグループワークを行い、展示の反省点・改善点を協議し、次年度以降の履修生に向けての提言をまとめる。	予習：展示内容の自己評価・自己分析 復習：自分自身の改善点を把握する
8	研究方法の解説	博物館および地域文化資源をテーマとした研究の方法について講義を行う。	予習：人文系分野の研究手法について調べる 復習：授業内容を見直し、自分に合った研究方法を考える
9	研究テーマの設定	フィールドワーク、展示作業などを通じて興味を持った分野を選択し、卒業研究につなげるためのテーマを決定する。 また、卒業研究に向けての面談を実施し、テーマの妥当性や研究の進め方について指導する。	予習：研究テーマの考案 復習：研究テーマを決定
10	レポート作成の準備	研究テーマに基づいたレポートを作成するための文献調査を行う。	予習：専門演習ⅡAで配布された「レポート執筆要領」を再読 復習：作成方法の確認
11	レポート作成①	レポートを作成する。	予習：レポート作成準備 復習：レポート作成
12	レポート作成②	レポートを作成し、ポートフォリオを通じて提出する。 また、レポートを基に研究発表を行うので、発表準備を行う。	予習：レポート作成 復習：研究発表の練習、発表資料作成
13	研究発表①	一人 15 分程度の研究発表を行う。（質疑応答含む） 発表者以外は発表を評価し、発表者に質疑応答やコメントカードの形で伝達する。	【発表者】 予習：研究発表の練習 復習：レポートへの指摘事項の反映
14	研究発表②		【聞き手】 予習：発表評価方法の確認
15	後期レポートの受理	発表時の指摘事項を踏まえ、修正した研究成果レポートを提出し、後期のまとめを行う。	予習：レポート提出の準備 復習：個人目標の達成状況の確認